
平成29年度

しまくとぅば県民意識調査

報告書

平成30年3月

沖縄県

目次

第1章 調査の概要	2
1.調査の目的	2
2.調査内容	2
3.調査実施期間	2
4.調査対象者の抽出方法	2
5.調査方法	2
6.調査対象者の抽出方法	2
7.調査実施機関	3
8.集計・分析上の注意事項	3
第2章 調査結果の総括	5
1.調査結果のポイント	5
2.総括	9
第3章 調査結果	10
1.調査対象者の属性	10
2.「しまくとぅば」に対する親しみ	15
3.「しまくとぅば」に対するイメージ	17
4.「しまくとぅば」に対する理解度	18
5.「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況	20
6.「しまくとぅば」の使用頻度	22
7.「しまくとぅば」を使う相手	24
8.ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識	25
9.普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性	27
10.「しまくとぅば」の普及に必要なこと	29
11.子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識	30
12.学校の授業科目に「しまくとぅば」を加えることについて	31
13.家庭内での「しまくとぅば」への取組状況	32
参考資料 調査票	34

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

沖縄県では、「しまくとぅば」の普及継承を重点施策と位置づけ、平成25年度に、「しまくとぅば普及推進計画（10カ年計画）」を策定し、普及継承に取り組んでいる。

「しまくとぅば」は、地域の伝統行事等で使用される大切な言葉であるとともに、組踊や琉球舞踊、沖縄芝居等といった沖縄文化の基層となる言葉である。

県民の皆様の「しまくとぅば」に関する調査を行うことで、その実態を把握し、今後の「しまくとぅば」の普及に向けた課題と効果的な普及方法を検討する為に本調査を実施した。

2. 調査内容

平成28年度の実施した「しまくとぅば県民意識調査」の集計方法と同じ手法で、「しまくとぅば」に対する県民の意識や普及の度合いについて調査。

- ・調査対象：沖縄県内に在住する18歳以上の男女
- ・調査地区：県内全市町村
- ・回収実績：2,505件

※県民全体の縮図となるように、対象調査地区人口及び年齢構成比に応じ、調査件数を比例分配し市町村毎の件数を決定した。

3. 調査実施期間

平成30年2月19日（月）～平成30年3月12日（月）

4. 調査対象者の抽出方法

抽出方法は下記のとおり

- ①市町村別人口構成比に応じて、市町村別調査対象者数を設定
- ②2,500件回収目標につき、回収率98%想定で必要件数を2,551件に設定
- ③2,551件を市町村別人口構成比に応じて按分
- ④按分した市町村別調査対象数を10で除し、各市町村別調査員地点数を算出
- ⑤市町村別調査員地点は無作為抽出にて設定

市町村別人口、人口構成比、調査対象者数は4ページを参照。

5. 調査手法

調査員による訪問留置法及び訪問面接法にて実施した。

6. 調査対象者の抽出方法

エリアサンプリングにて実施した。

7.調査実施機関

株式会社アドスタッフ博報堂

8.集計・分析上の注意事項

回答者数は「n」で表記している。

集計値は、原則として回答数の合計を100とした場合の構成比で、小数点 第2位以下を四捨五入した値で示している。このため、内訳の合計が100%にならない場合がある。

複数回答（2つ以上の選択肢を回答）は原則として100%を超える。

平成28年度に実施した「しまくとば県民意識調査」との比較については、本調査と調査対象、調査方法に異なるところがあるため、確報値としての単純比較は難しいが、どのような推移、傾向が見られるのかという点を分析することとした。

図表1 市町村別人口、対象年代人口、人口構成比、回収数

市町村名	住基人口 (総数)	住基人口 (15歳-75 歳)	人口構成比	回収目標数	回収目標率	調査対象数	回収数
沖縄県	1,283,342	1,052,304	100.0	2,502	98.0%	2,553	2,505
那覇市	286,712	234,630	22.3	558	98.0%	569	546
宜野湾市	85,082	71,116	6.8	169	98.0%	172	169
石垣市	42,731	35,256	3.4	85	98.0%	87	85
浦添市	99,609	82,939	7.9	197	98.0%	201	197
名護市	54,891	45,145	4.3	108	98.0%	110	108
糸満市	52,778	43,666	4.1	103	98.0%	105	105
沖縄市	123,119	101,367	9.6	242	98.0%	247	242
豊見城市	53,923	45,315	4.3	107	98.0%	109	108
うるま市	107,778	88,121	8.4	213	98.0%	217	217
宮古島市	48,165	37,999	3.6	90	98.0%	92	89
南城市	38,188	30,628	2.9	72	98.0%	73	70
国頭村	4,516	3,381	0.3	8	98.0%	8	8
大宜味村	2,904	2,181	0.2	4	98.0%	4	4
東村	1,685	1,292	0.1	1	98.0%	1	2
今帰仁村	8,656	6,588	0.6	16	98.0%	16	16
本部町	12,057	9,461	0.9	23	98.0%	23	23
恩納村	9,360	7,565	0.7	19	98.0%	19	20
宜野座村	5,103	4,068	0.4	10	98.0%	10	10
金武町	9,981	7,794	0.7	21	98.0%	21	21
伊江村	4,223	3,170	0.3	7	98.0%	7	8
読谷村	36,088	29,551	2.8	69	98.0%	70	75
嘉手納町	12,106	9,604	0.9	24	98.0%	24	24
北谷町	25,037	20,676	2.0	50	98.0%	51	50
北中城村	14,674	11,898	1.1	27	98.0%	28	27
中城村	17,647	14,660	1.4	35	98.0%	36	34
西原町	30,811	25,768	2.4	61	98.0%	62	61
与那原町	16,575	13,859	1.3	32	98.0%	33	33
南風原町	32,491	27,254	2.6	63	98.0%	64	65
渡嘉敷村	596	470	0.0	1	98.0%	1	1
座間味村	818	648	0.1	2	98.0%	2	1
粟国村	667	453	0.0	1	98.0%	1	1
渡名喜村	359	248	0.0	1	98.0%	1	1
南大東村	1,082	859	0.1	2	98.0%	2	2
北大東村	505	415	0.0	1	98.0%	1	1
伊平屋村	1,132	847	0.1	2	98.0%	2	2
伊是名村	1,345	1,014	0.1	2	98.0%	2	2
久米島町	7,275	5,618	0.5	13	98.0%	13	13
八重瀬町	26,416	21,736	2.1	52	98.0%	53	52
多良間村	1,063	800	0.1	2	98.0%	2	2
竹富町	3,713	3,009	0.3	7	98.0%	7	7
与那国町	1,481	1,235	0.1	2	98.0%	2	3

※平成29年1月1日現在のデータを使用

第2章 調査結果の総括

1. 調査結果のポイント

「しまくとぅば」に対して80.0%の県民が「親しみがある」と回答。平成28年度と比較すると「親しみがある」の回答が微増。

- 「しまくとぅば」に対して、「親しみを持っている」が39.1%、「どちらかといえば親しみを持っている」の回答が40.9%で、これらを合わせると、80.0%の県民が「しまくとぅば」に対して親しみを持っていると回答している。
- 平成28年度の調査結果と比較すると、「親しみを持っている」が40.6%、「どちらかといえば親しみを持っている」が37.8%で合算すると78.4%となり、昨年比1.6%増加となる。

県民の60%が、「しまくとぅば」に対して「面白い」「明るい」「身近に感じる」「誇らしい」というイメージを持っている。

- 「しまくとぅば」について12の項目について質問。最も回答率が高かったのは「面白い」で、76.0%だった。次いで「明るい」で69.9%、「身近に感じる」で69.6%、「誇らしい」で67.1%と続く。50%以上の回答率では、「豪快」58.7%、「感情的」56.9%、「田舎っぽい」52.4%、「やわらかい」50.3%となっている。

県民の61.1%が、「しまくとぅば」の理解度について「よくわかる」「ある程度わかる」と回答。平成28年度調査より減少傾向にある。

- 「しまくとぅば」についての理解度については、「よくわかる」が17.8%、「ある程度わかる」が43.3%で、県民の61.1%が一定の理解がある。
- 平成25年度、28年度の調査比較では、「よくわかる」「ある程度わかる」の合算値で、平成25年度は68.4%、平成28年度では63.8%、本調査61.1%から年々減少傾向と伺える。

県民の88.5%は「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントに参加したことがない。

- 「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントには「参加したことがある」が10.5%、「参加したことはない」が88.5%であった。圧倒的に参加経験がない県民が多いことがわかる。

「しまくとぅば」を主に使う、共通語と同じくらい使う県民は29.6%。挨拶程度以上で使う県民は54.6%である。

- 「しまくとぅば」の使用頻度は、「しまくとぅば」を主に使うが6.5%、「「しまくとぅば」と「共通語」を同じくらい使う」が23.1%、「挨拶程度使う」が25.0%だった。
- 性別では男性のほうが使用率が高く、「「しまくとぅば」を主に使う、共通語と同じくらい使う」では、男性が38.3%、女性では20.8%で大きな差がある。
- 年代別では「「しまくとぅば」を主に使う、共通語と同じくらい使う」では10代が13.8%、20代が12.8%、30代が15%、40代が21.7%、50代が37.9%、60代が55.5%、70代以上が69.8%となり、高齢になるにつれ、使用頻度が高くなる傾向にある。

「しまくとぅば」を使う相手は「友達」が最も高く58%であり、平成25年度、28年度と同じ傾向である。

- 「しまくとぅば」を使う相手は、「友達」が最も高く58%、次いで「父母」で39%、「親戚」で32.3%、「兄弟」で30.7%、「祖父母」29.6%と続いている。
- 性別では男女共に「友達」が最も高くなるが、男性68%、女性47.2%と約20%の開きがある。

県民の49.5%がビジネスや公共の場で「しまくとぅば」の使用については肯定的である。

- 「しまくとぅば」をビジネスや公共の場で使用してもいいと思うかについて、「そう思う」が20.3%、「ややそう思う」が29.2%で合算すると49.5%となり、半数の県民は肯定的である。
- 年代別で見ると、10代から40代までは「そう思う」「ややそう思う」の合算が50%以下に対して、50代では60.4%、60代で63.1%、70代以上で71.4%と年齢が高くなるにつれ肯定的に考える傾向にある。
- 地区別で見ると「そう思う」「ややそう思う」の合算が最も高いのが北部地区で66.1%であり、2番目に高い中部地区が51.2%で約15%ほど開きがある。

普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要とする県民は76.7%。
平成25年度、28年度と同様の傾向である。

- 普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性については、「非常に必要」が19.4%、「ある程度必要」で57.3%となり、が合算すると76.7%となっている。
- 平成25年度では「非常に必要」と「ある程度必要」の合算が78.7%、28年度では76.9%で29年度も同様の傾向となる。
- 年代別で見ると、年代が上がるにつれ必要と感じる県民が多くなる。
10代が64.6%、20代で62.9%、30代で74.5%、40代で75.5%、50代で83.2%、60代で88.4%、70代以上で85.7%と50代以上では8割以上の県民が必要と感じている。

今後「しまくとぅば」を普及させるためには「学校の総合学習等での実施」が最も高い。

- 「しまくとぅば」の普及に必要なことでは、「学校の総合学習等での実施」が60.6%で最も高く、次いで「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」が55.6%、「「しまくとぅば」講座の開設」で36.2%となる。
- 平成25年度、28年度と比較すると、29年度も同様に「学校の総合学習等での実施」、「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」、「「しまくとぅば」講座の開設」の順で高くなっている。

県民の80.9%が子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しい。と肯定的である。

- 子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいかの質問では、「是非、使えるようになって欲しい」が30.3%、「できれば、使えるようになって欲しい」が50.6%で合算すると80.9%が肯定的である。
- 地区別に見ると、「是非、使えるようになって欲しい」と「できれば、使えるようになって欲しい」の合算が北部地区では92%で全体平均より10%以上高くなっている。
- 年代別では、年代が高くなるにつれ、肯定的である。

「しまくとぅば」を学校の授業科目に加える事については「行事や日常の挨拶等、授業以外での活動で取り組んで欲しい」が52.3%で半数以上の回答である。

- 「しまくとぅば」の学校の授業科目に加える事については「行事や日常の挨拶等、授業以外での活動で取り組んで欲しい」が52.3%で最も高い。次に「どちらともいえない」23.6%、「他の教科の授業を減らしてでも、是非加えて欲しい」が13.5%と続く。

家庭内での「しまくとぅば」への取り組みについては、「ほとんど教えていない」が51.6%。半数以上が取り組んでいない。

- 「子どもがいる」と回答した1629人に対して、家庭内での取組状況を確認。「積極的に教えている」が8.8%、「時々教えている」が38.6%で合算すると47.4%。半数以上が家庭内での取組がほとんどない。

2.総括

「しまくとぅば」について、県民の約80%が親しみを持っている。また、「しまくとぅば」の必要性では76.7%で、平成25年度の調査と平成28年度の調査と同様の傾向であり、県民の意識としては「しまくとぅば」の重要性は高いといえる。

しかし、「親しみ」「理解度」については、平成25年度、平成28年度の調査から減少傾向にある。

県民は「しまくとぅば」に対して、「面白い」「明るい」「身近に感じる」「誇らしい」というイメージを持っている。逆に「丁寧」「さわやか」「かっこいい」「明瞭」では県民のイメージが弱く、普及継承という観点からも「面白い」「明るい」「身近に感じる」「誇らしい」という面を訴求していく必要がある。

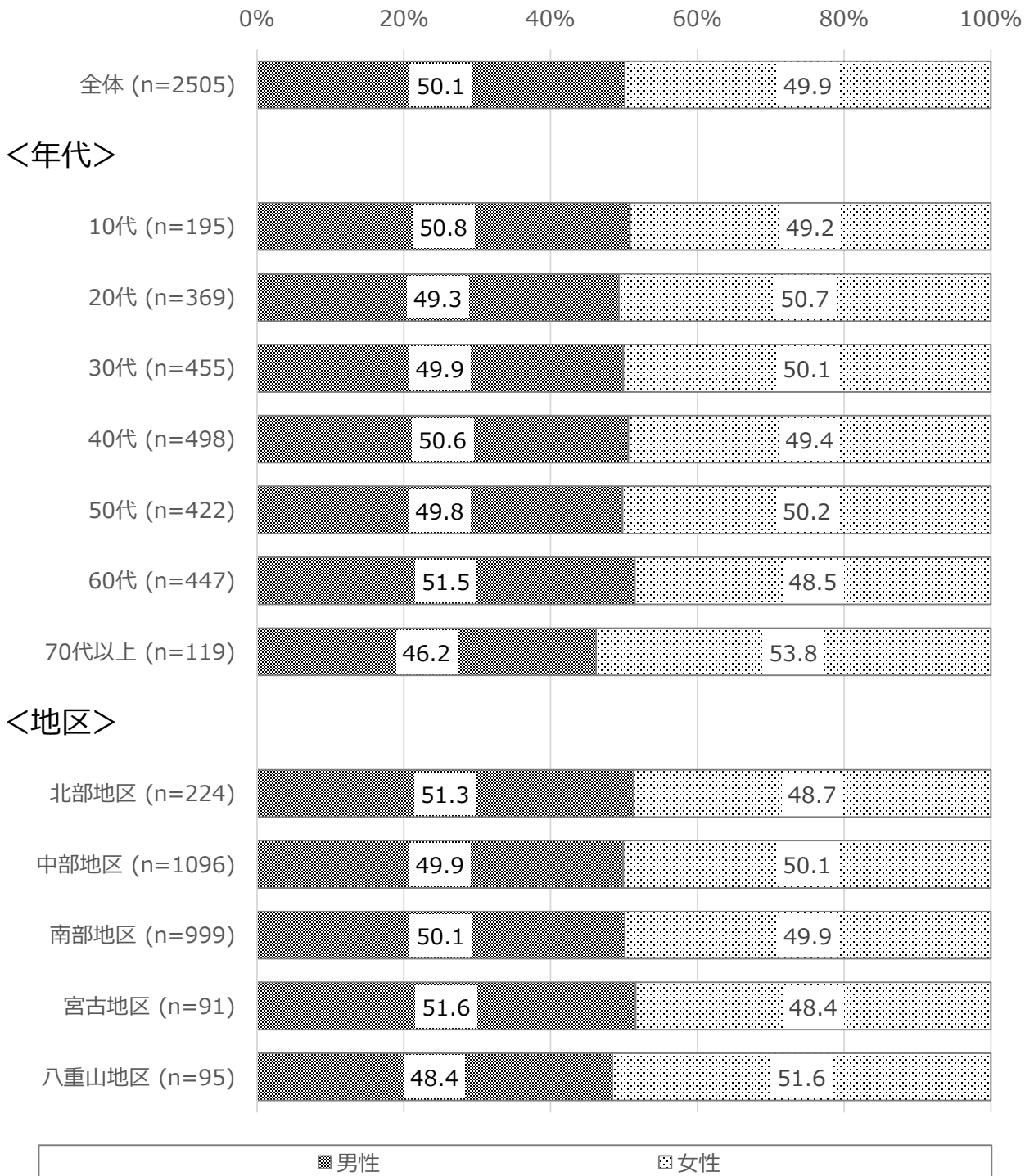
県民の多くが子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになってほしいという肯定的な意見を持っており、学校での学習等の実施やテレビ・ラジオ等、マスコミを利用したPR活動が普及に必要と考えられる。

本調査を通じ、年代別で回答率に大きな差が見られた。60代、70代の高年層と比較すると、10代や20代の若年層の「理解度」や「使用頻度」が低いため、普及・継承の観点から若年層への理解浸透や話す機会を提供していく必要がある。

また地区別では、北部地区で使用頻度やビジネスや公共の場での使用や、子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいという意識が高く、地区ごとに異なるテーマでの啓発が必要だといえる。

調査対象者の属性

性別

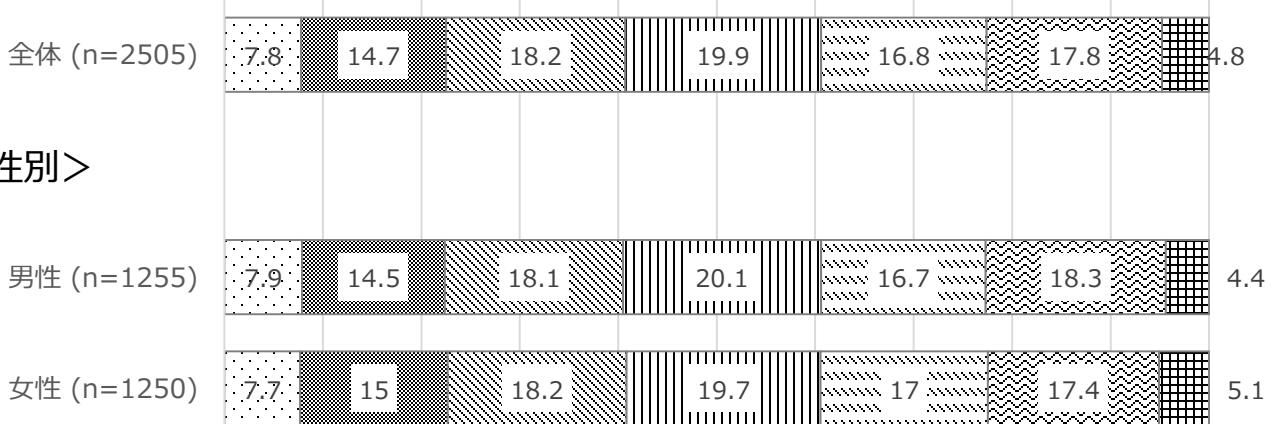


調査対象者の属性

年代

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

<性別>

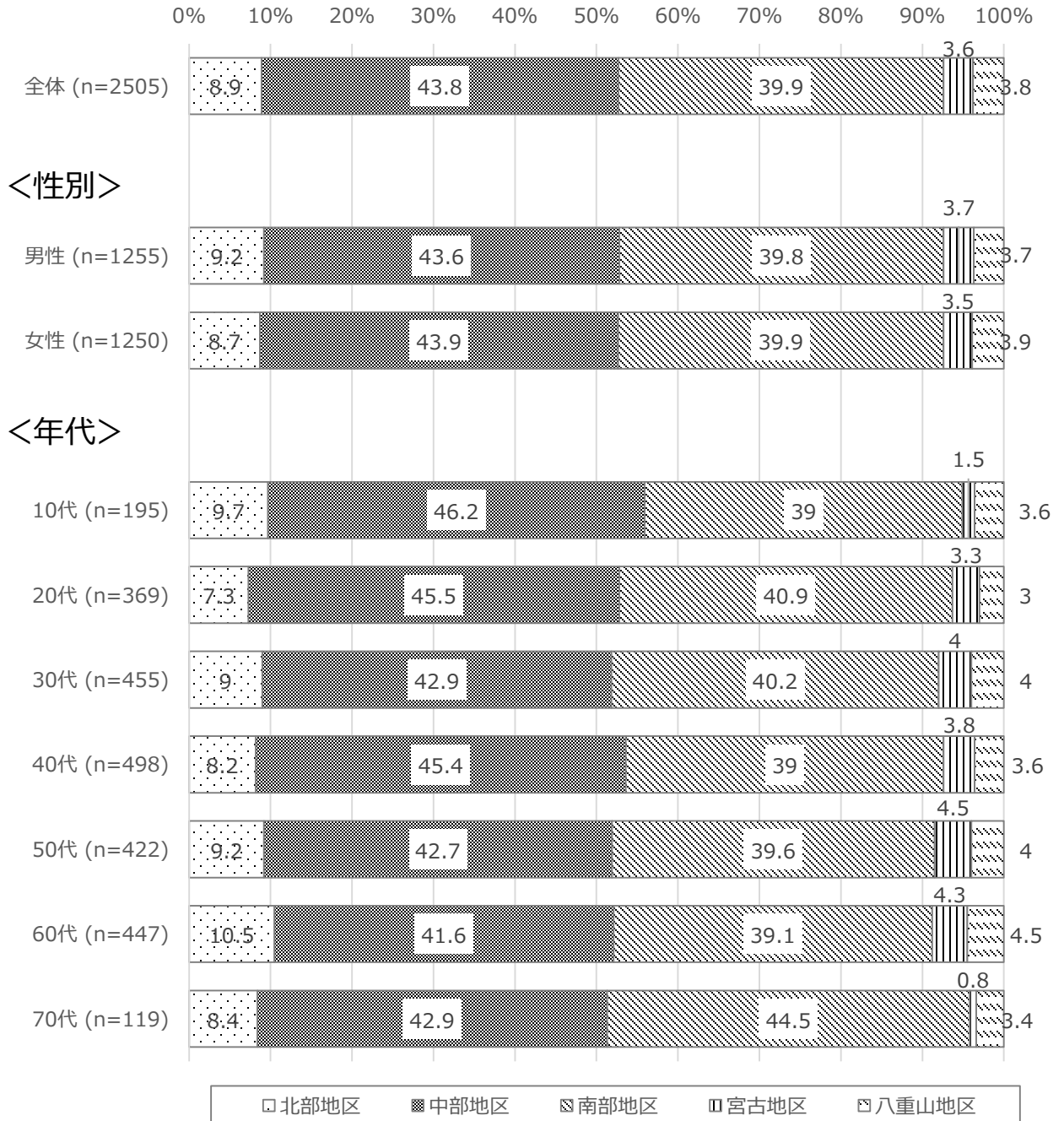


<地区>

□10代 ■20代 ▨30代 ▩40代 ▪50代 ▫60代 ▬70代

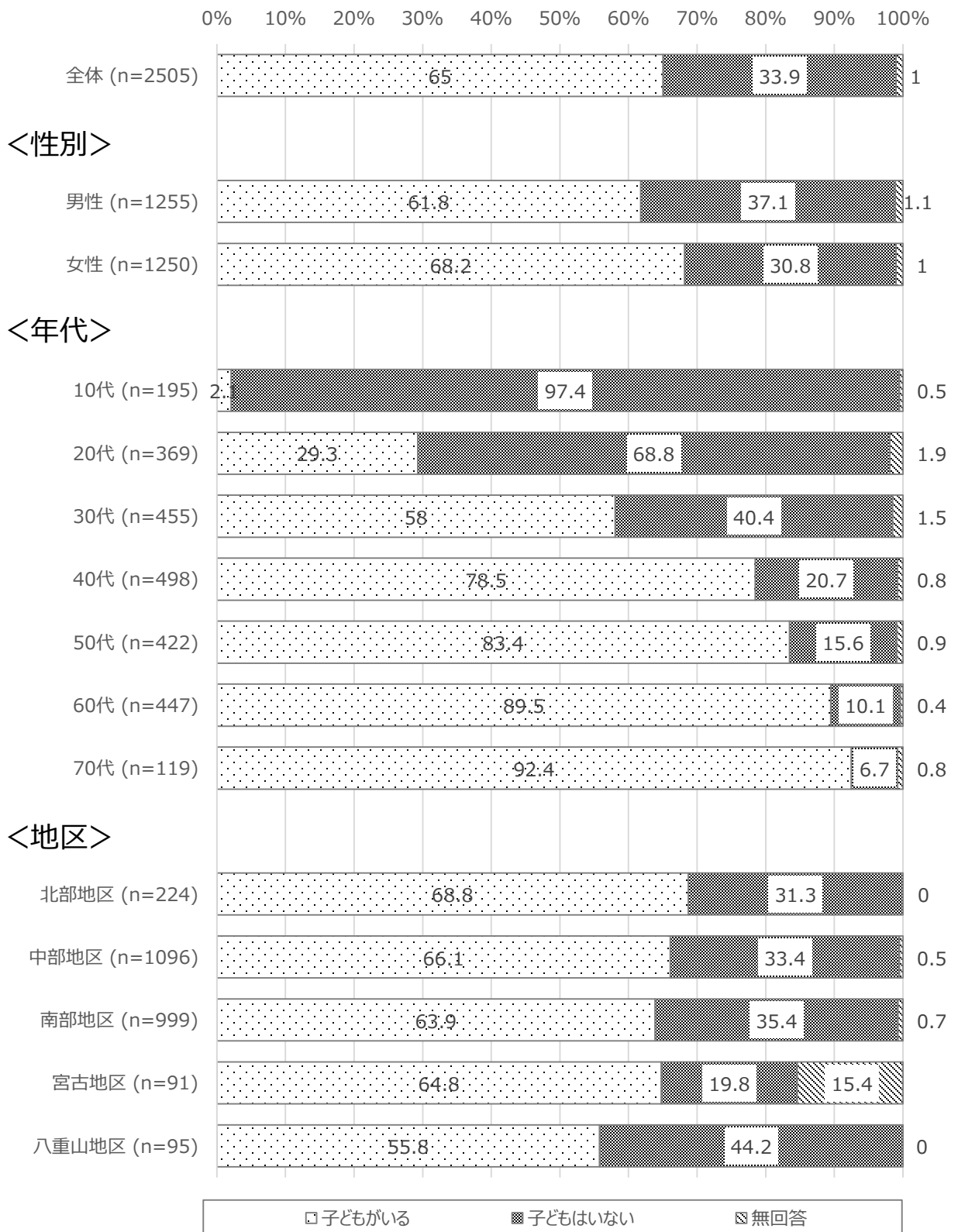
調査対象者の属性

居住地区



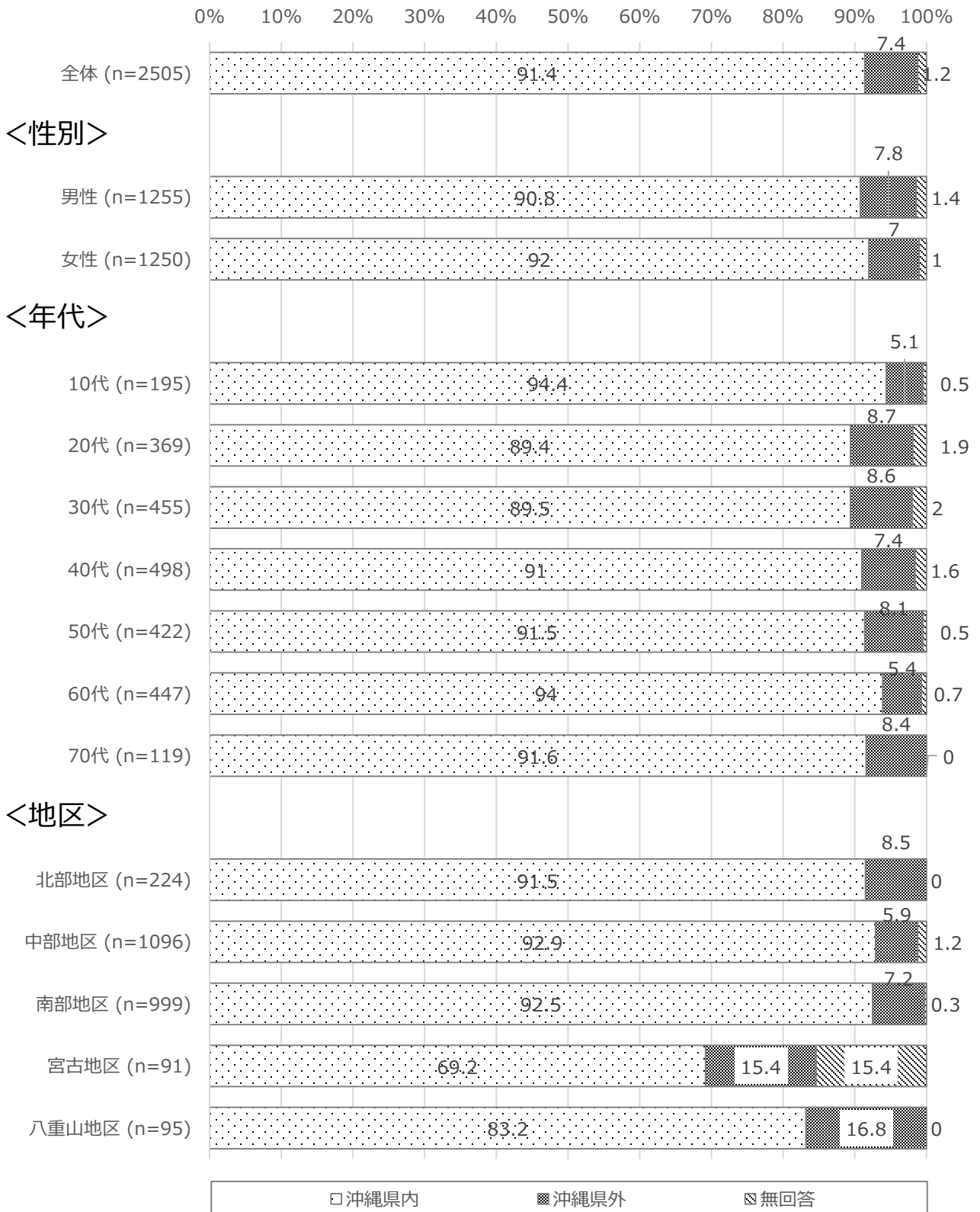
調査対象者の属性

子どもの有無



調査対象者の属性

出生地



2.「しまくとぅば」に対する親しみ

「しまくとぅば」に対する親しみでは、39.1%が「親しみを持っている」と回答。40.9%の「どちらかといえば親しみを持っている」を加えると80.0%の県民が親しみを持っていると回答。

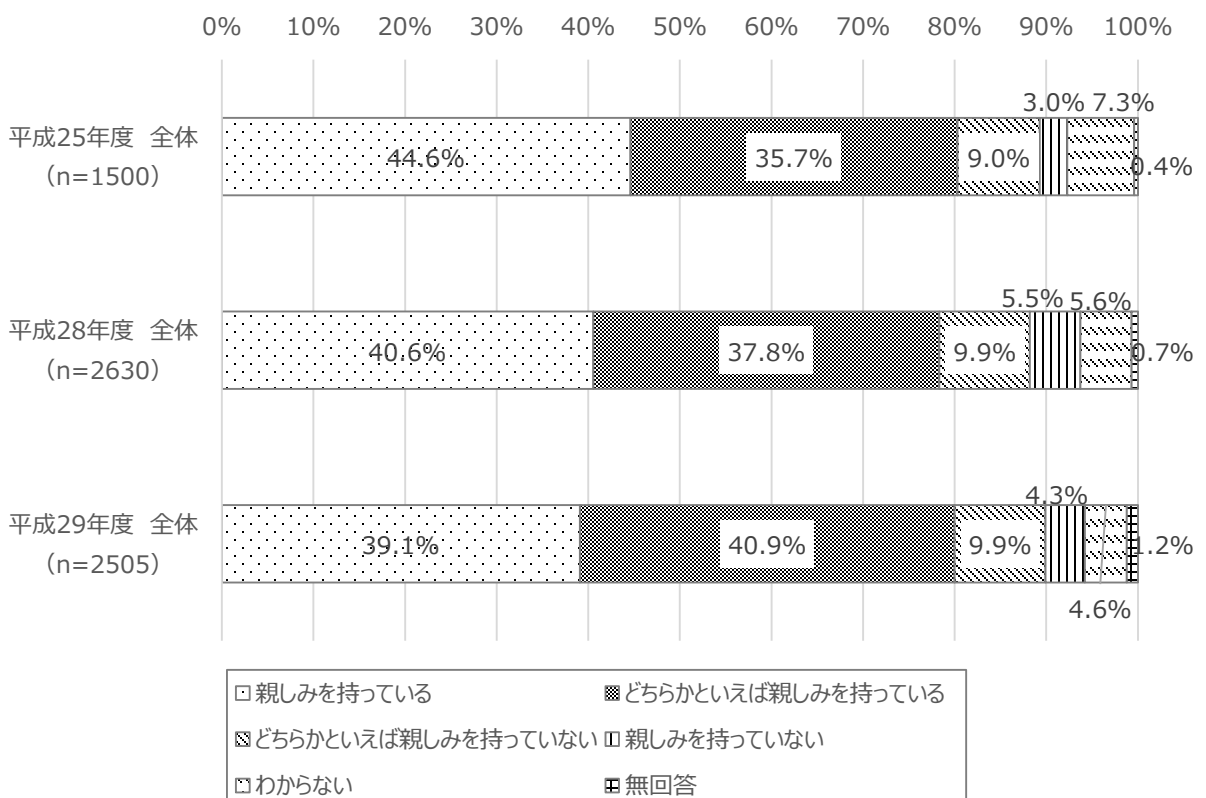
平成25年度の調査では「親しみを持っている」と「どちらかといえば親しみを持っている」の合算が80.3%、28年度の調査では78.4%であり、本年度も同様の傾向となります。

性別で見た場合では、「親しみを持っている」が男性が高くなるが、「どちらかという」と親しみを持っている」まで含めると、性別での差は無い。

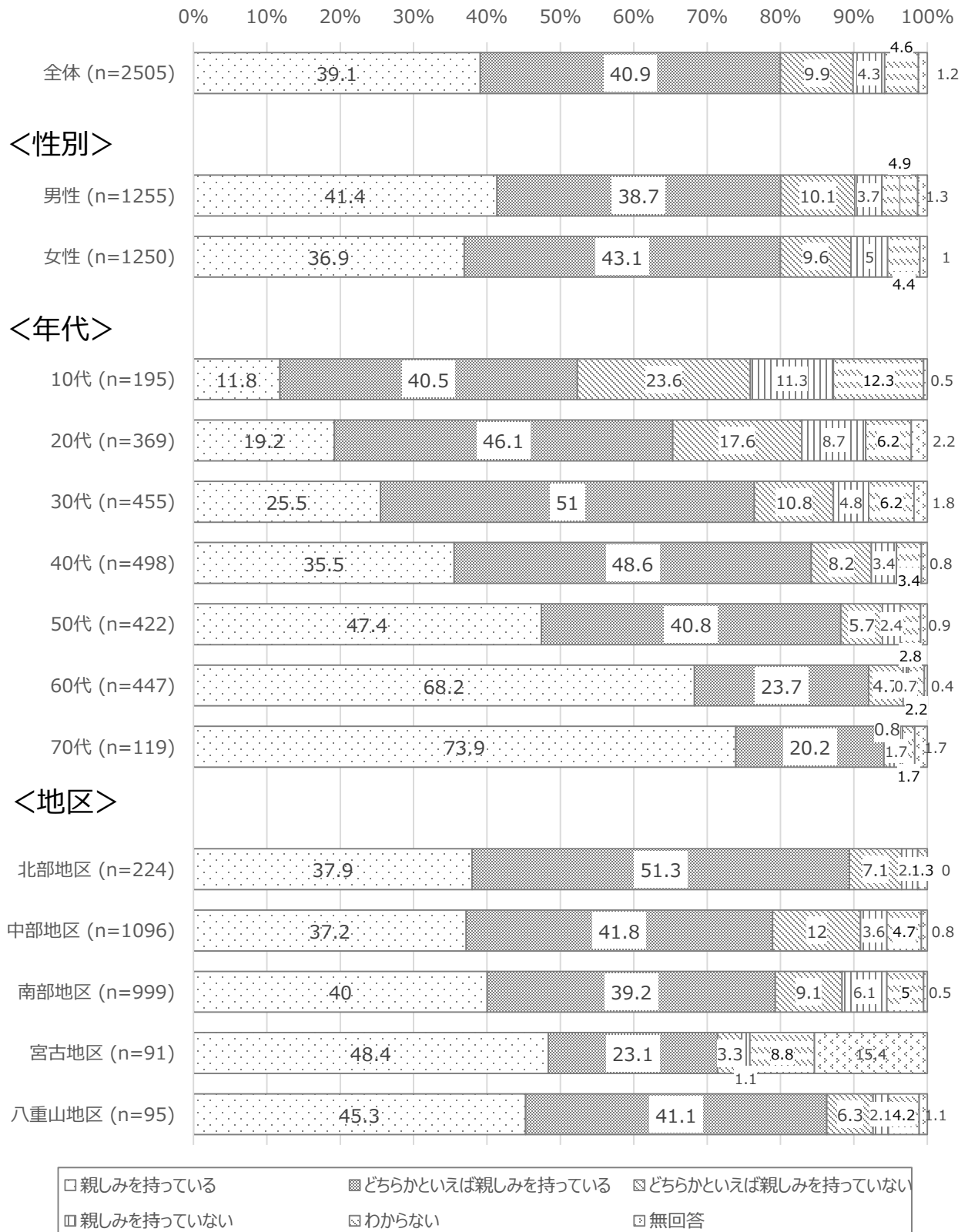
年代別で見ると、10代の52.3%から年代が高くなるにつれ県民の親しみが高くなっている。70代以上では94.1%となる。

地区別で見ると、離島の宮古地区と八重山地区が「親しみを持っている」が高く、「どちらかという」と親しみを持っている」まで含めた場合、北部地区が最も高くなる。

「しまくとぅば」に対する親しみ（前回比較）



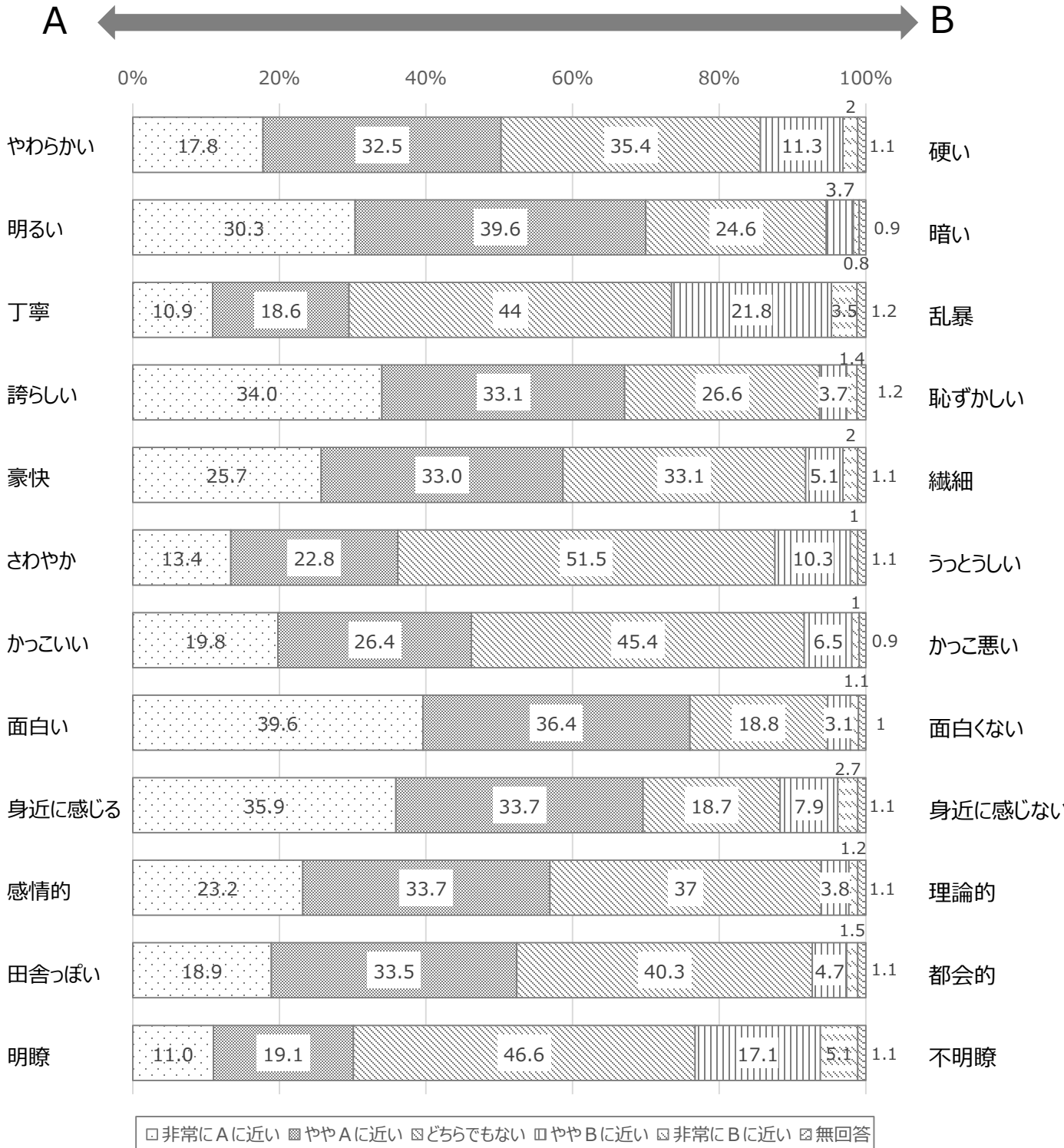
「しまくとぅば」に対する親しみ



3.「しまくとば」に対するイメージ

「しまくとば」に対するイメージを確認するため、12のイメージについて、ふたつの相反するAとBの表現を提示し、どちらに近いかを尋ねた。（基本的にAを肯定的な表現、Bを否定的な表現としている。）肯定的な回答が多いのは「面白い」（76.0%）、「明るい」（69.9%）「身近に感じる」（69.6%）、「誇らしい」（67.1%）などである。逆に肯定意見が少ないのは「丁寧」（29.5%）、「明瞭」（30.1%）、「さわやか」（36.2%）である。

「しまくとば」に対するイメージ



4.「しまくとぅば」に対する理解度

「しまくとぅば」に対する理解度では、「よくわかる」が17.8%、「ある程度わかる」が43.3%となり、合算すると一定の理解できている県民は61.1%となる。

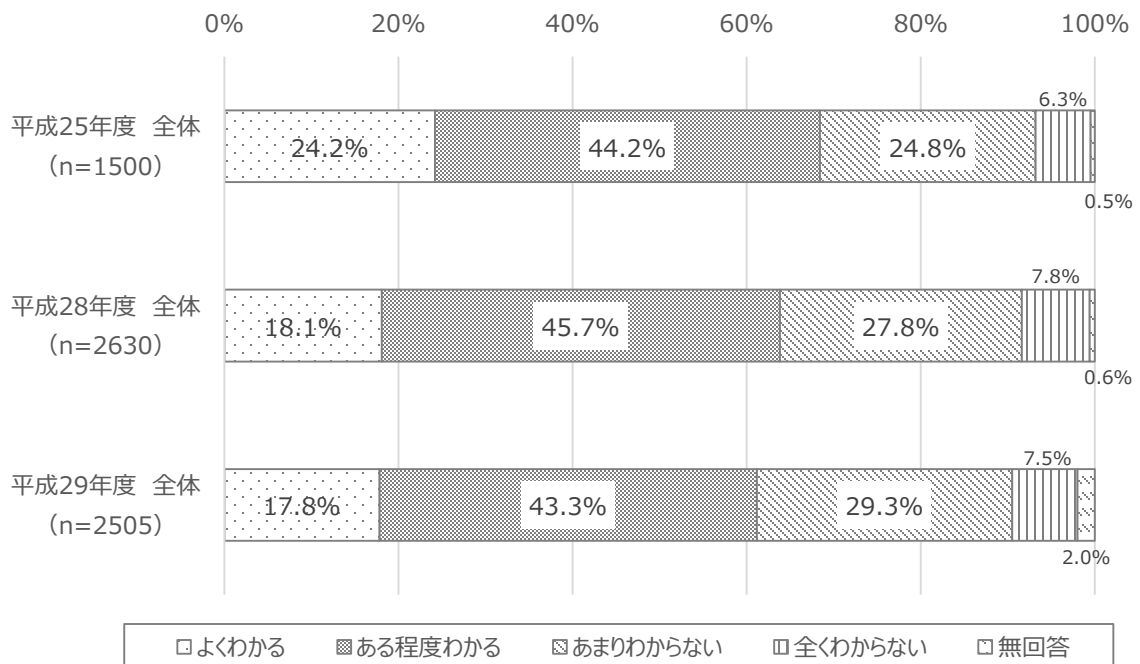
平成25年度の調査では、「よくわかる」が24.2%、「ある程度わかる」が44.2%となり、合算すると68.4%、28年度の調査では、「よくわかる」が18.1%、「ある程度わかる」が45.7%となり、合算すると63.8%で徐々に減少傾向にある。

性別では男性が「よくわかる」「ある程度わかる」共に女性を上回っている。

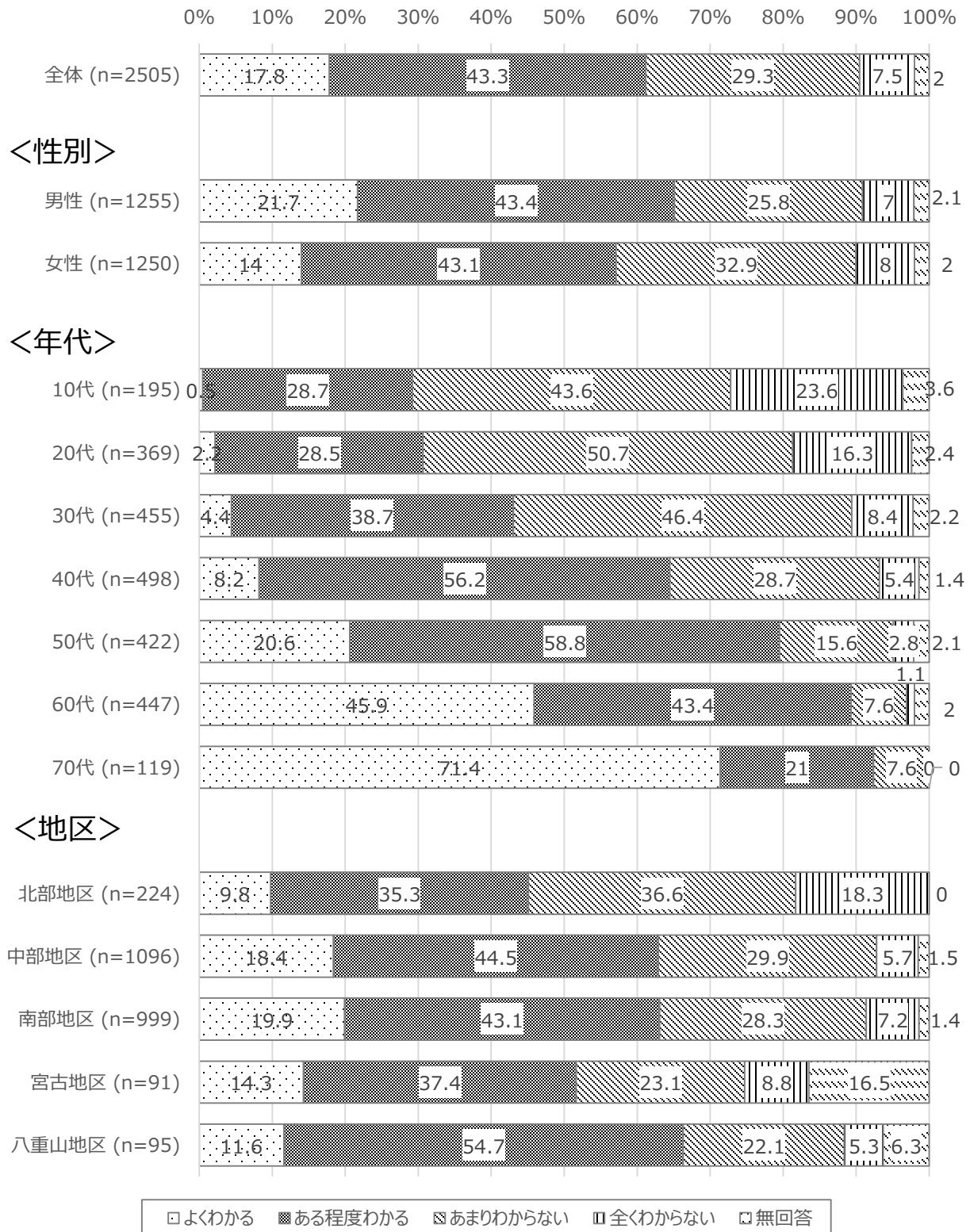
年代別では、「よくわかる」と「ある程度わかる」の合計が10代の29.2%から年代が高くなるにつれ県民の「しまくとぅば」に対する理解度が高くなっている。70代以上では92.4%となる。

地区別では、八重山地区、中部地区、南部地区が「よくわかる」と「ある程度わかる」の合計が他の地区と比べて高くなっている。

「しまくとぅば」に対する理解度（前回比較）



「しまくとぅば」に対する理解度

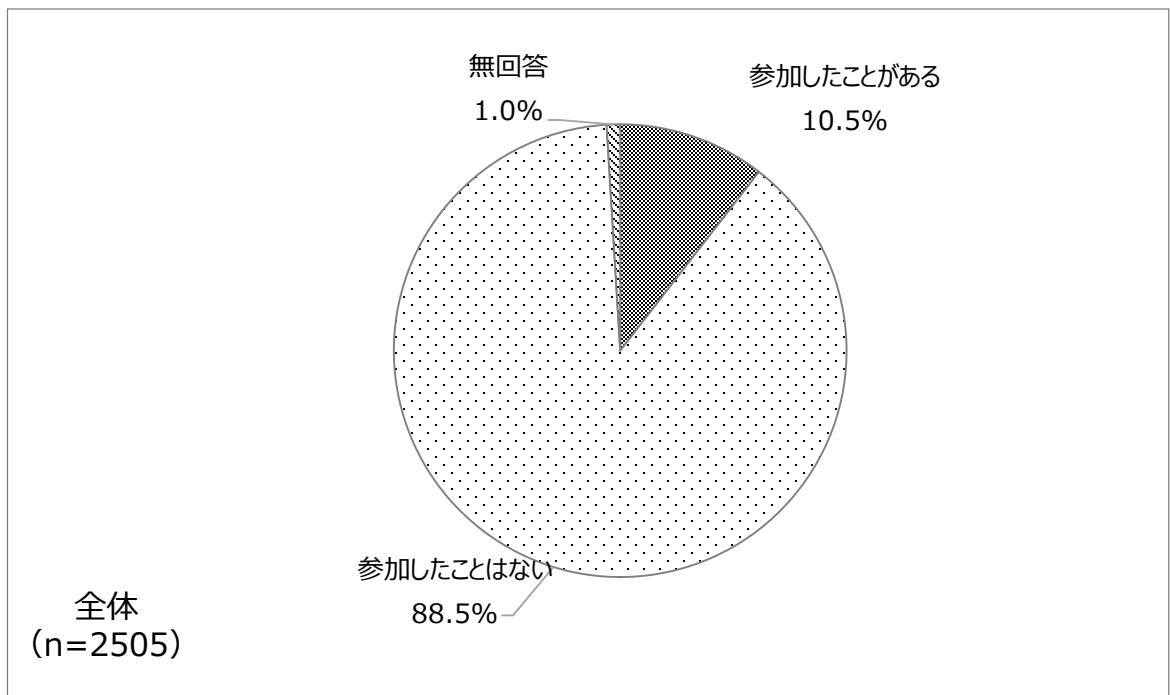


5.「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況

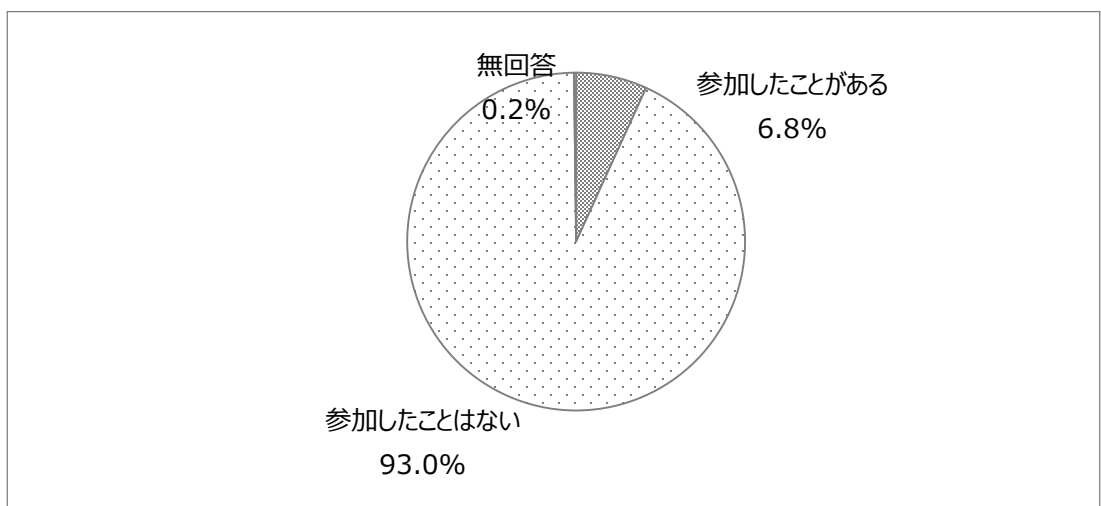
県民の「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況は全体で「参加したことがある」が10.5%となる。「参加したことはない」が88.5%で圧倒的に参加経験の無い県民が多い。

平成28年度の調査では、「参加したことがある」が6.8%だったことから上昇傾向にはある。

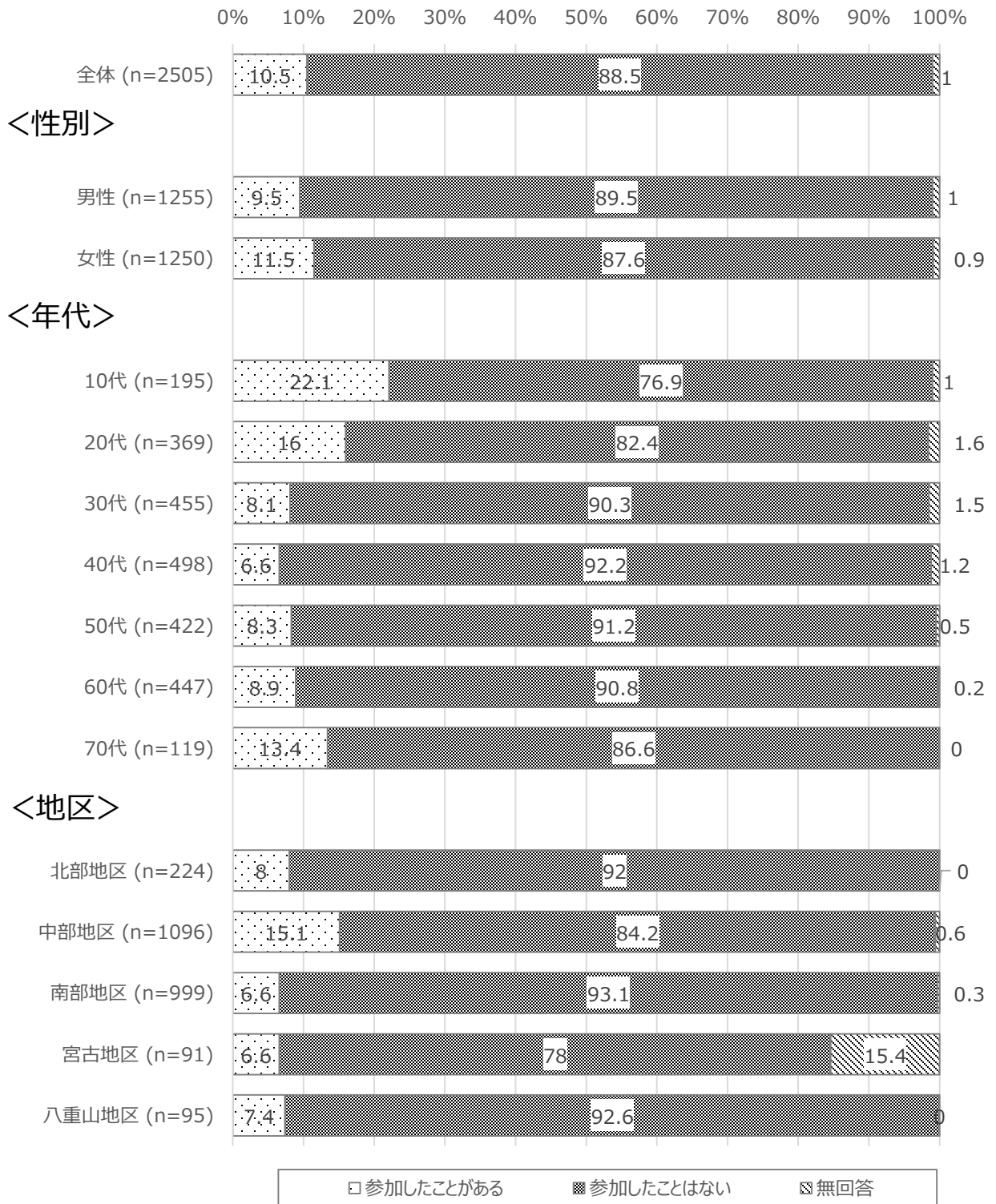
平成29年度「しまくとぅば」講座や関連イベントの参加状況



【参考】平成28年度「しまくとぅば」講座や関連イベントの参加状況



「しまくとば」講座や関連イベントの参加状況



6.「しまくとぅば」の使用頻度

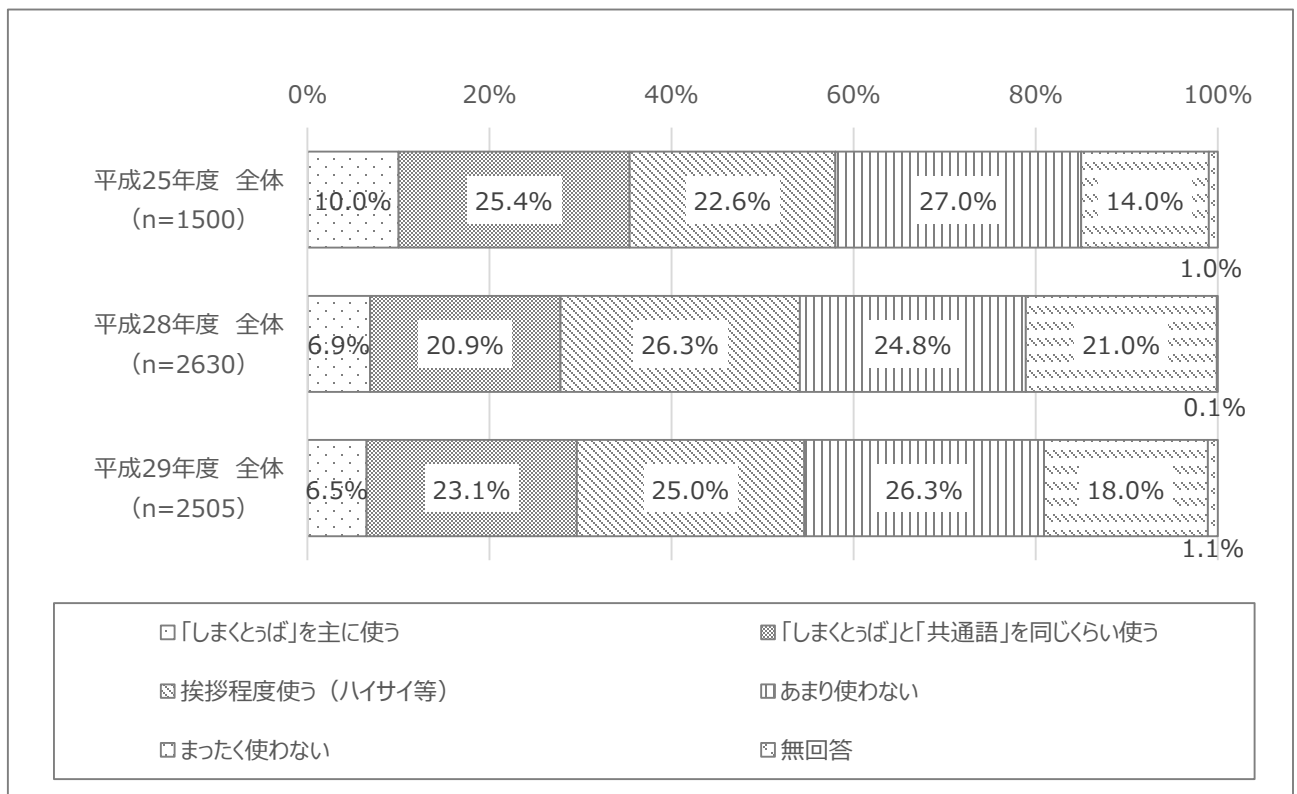
「しまくとぅば」の使用頻度については、「「しまくとぅば」を主に使う」が6.5%、「「しまくとぅば」と「共通語」を同じくらい使う」が23.1%、「挨拶程度使う」が25.0%で「しまくとぅば」を使用している割合は、54.6%となる。

平成25年度の調査では「しまくとぅば」を使用している割合は58.0%、28年度の調査では、54.1%だった。29年度の調査では、「「しまくとぅば」を主に使用する」が過去調査を下回ったが、「「しまくとぅば」と「共通語」を同じくらい使う」では28年度調査より高くなっている。

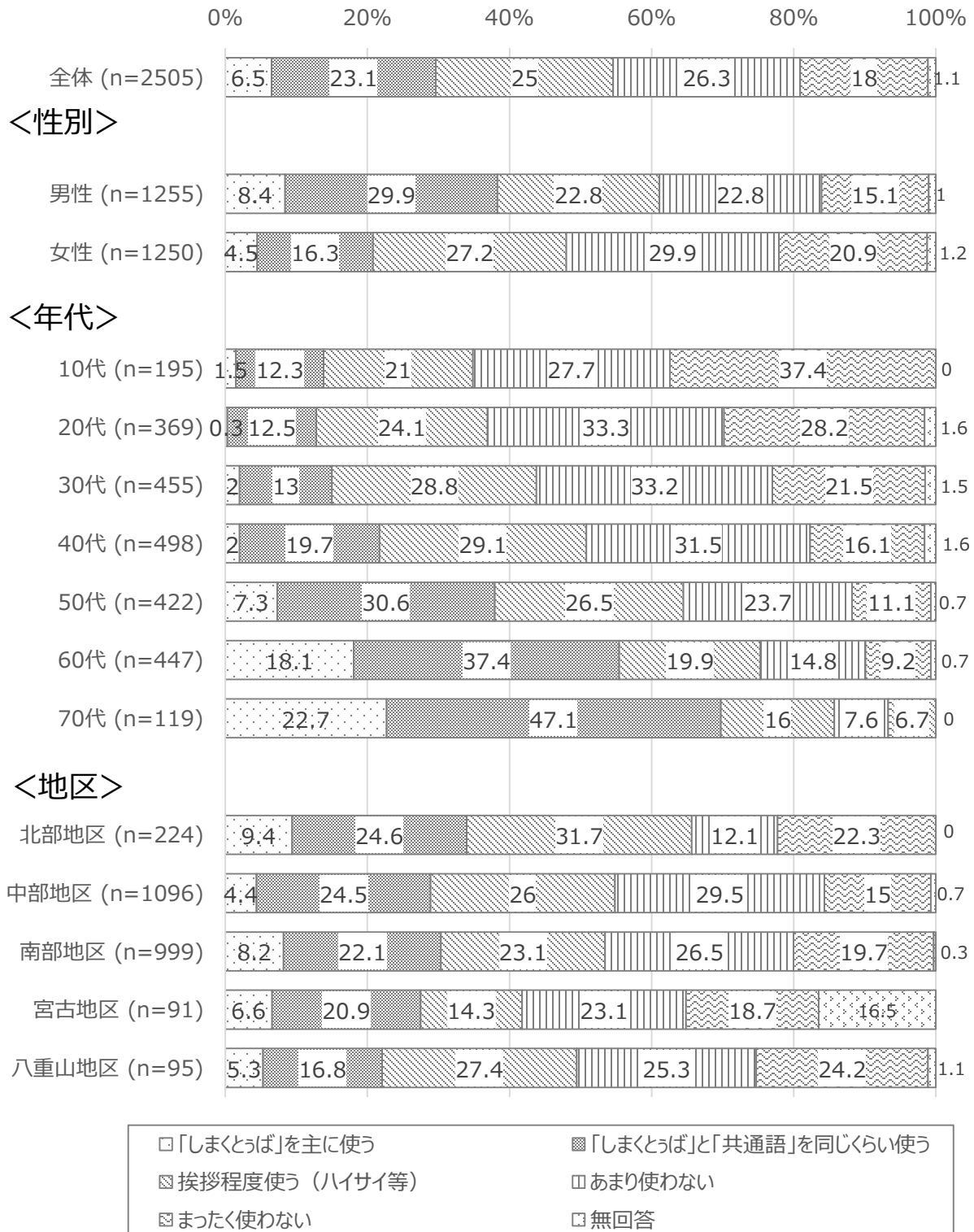
性別では、「しまくとぅば」を使用している割合は男性が61.1%、女性では48.0%で男性のほうが使用している割合が高い。

年代別では、年代が高くなるにつれ使用している割合が高く、10代の34.8%に比べ、60代では75.4%、70代以上では85.8%と使用が高くなっている。

「しまくとぅば」の使用頻度（前回比較）



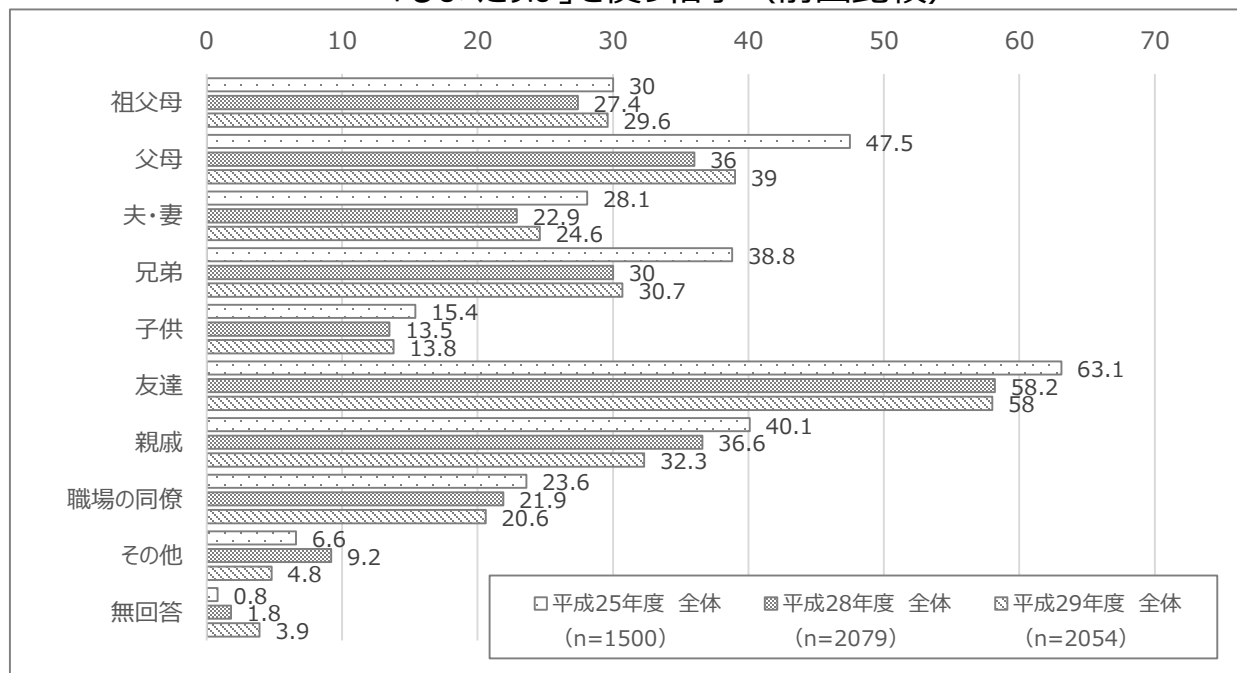
「しまくとぅば」の使用頻度



7.「しまくとば」を使う相手

「しまくとば」の使用頻度については、「友達」(58.0%)が最も多く、次いで「父母」(39.0%)、「親戚」(32.3%)と続く。過去の調査でも「友達」、「父母」、「親戚」が上位3位以内である。「親戚」「職場の同僚」は減少傾向である。

「しまくとば」を使う相手 (前回比較)



「しまくとば」を使う相手

	祖父母	父母	夫・妻	兄弟	子供	友達	親戚	職場の同僚	その他	無回答
全体 (n=2054)	29.6	39	24.6	30.7	13.8	58	32.3	20.6	4.8	3.9
男性 (n=1065)	28.9	40.2	26.7	35.4	14.8	68	35.6	26.7	4.1	3.4
女性 (n=989)	30.4	37.7	22.3	25.6	12.6	47.2	28.8	14.1	5.5	4.4
10代 (n=122)	38.5	32.8	3.3	17.2	-	65.6	13.9	3.3	8.2	4.1
20代 (n=265)	38.9	29.4	9.1	15.5	4.5	57.4	15.5	12.5	3.4	5.7
30代 (n=357)	32.8	36.1	14.3	20.2	7.6	52.9	19	16.8	2.2	5.3
40代 (n=418)	34.4	40.4	19.6	22.5	10.5	50.7	24.4	23.7	3.1	4.3
50代 (n=375)	25.6	50.7	29.3	37.3	14.4	57.3	38.4	29.9	2.4	3.5
60代 (n=406)	22.4	43.3	43.1	49.8	24.6	65.5	55.4	25.9	7.4	2
70代 (n=111)	9.9	17.1	53.2	54.1	41.4	69.4	60.4	9	17.1	1.8
北部地区 (n=174)	23.6	32.8	42	49.4	20.1	76.4	39.1	33.3	7.5	7.5
中部地区 (n=932)	30.9	39.3	22.9	29	11.8	56.1	29.7	17.9	3.8	2
南部地区 (n=802)	30.4	40.8	23.9	29.8	15.6	57.4	35.9	22.6	5.5	3.6
宮古地区 (n=74)	28.4	37.8	17.6	27	12.2	41.9	21.6	16.2	6.8	21.6
八重山地区 (n=72)	20.8	31.9	19.4	20.8	5.6	61.1	20.8	6.9	1.4	4.2

8.ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識

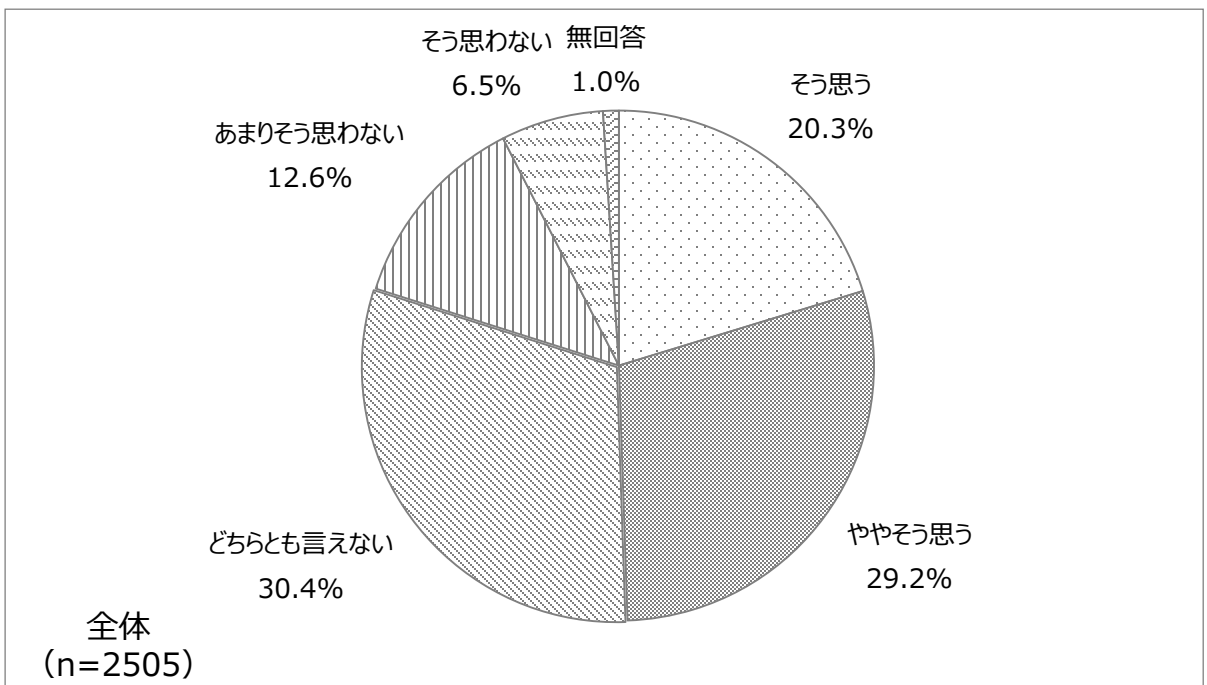
「しまくとぅば」のビジネスや公共の場で使用してもいいかについて、「そう思う」が20.3%、「ややそう思う」が29.2%で肯定的な意見としては、49.5%となる。逆に、「あまりそう思わない」が12.6%、「そう思わない」が6.5%で否定的な意見としては、19.1%となっている。

性別で見ると、肯定意見では、男性が51.2%、女性が47.7%で男性がやや高くなっている。

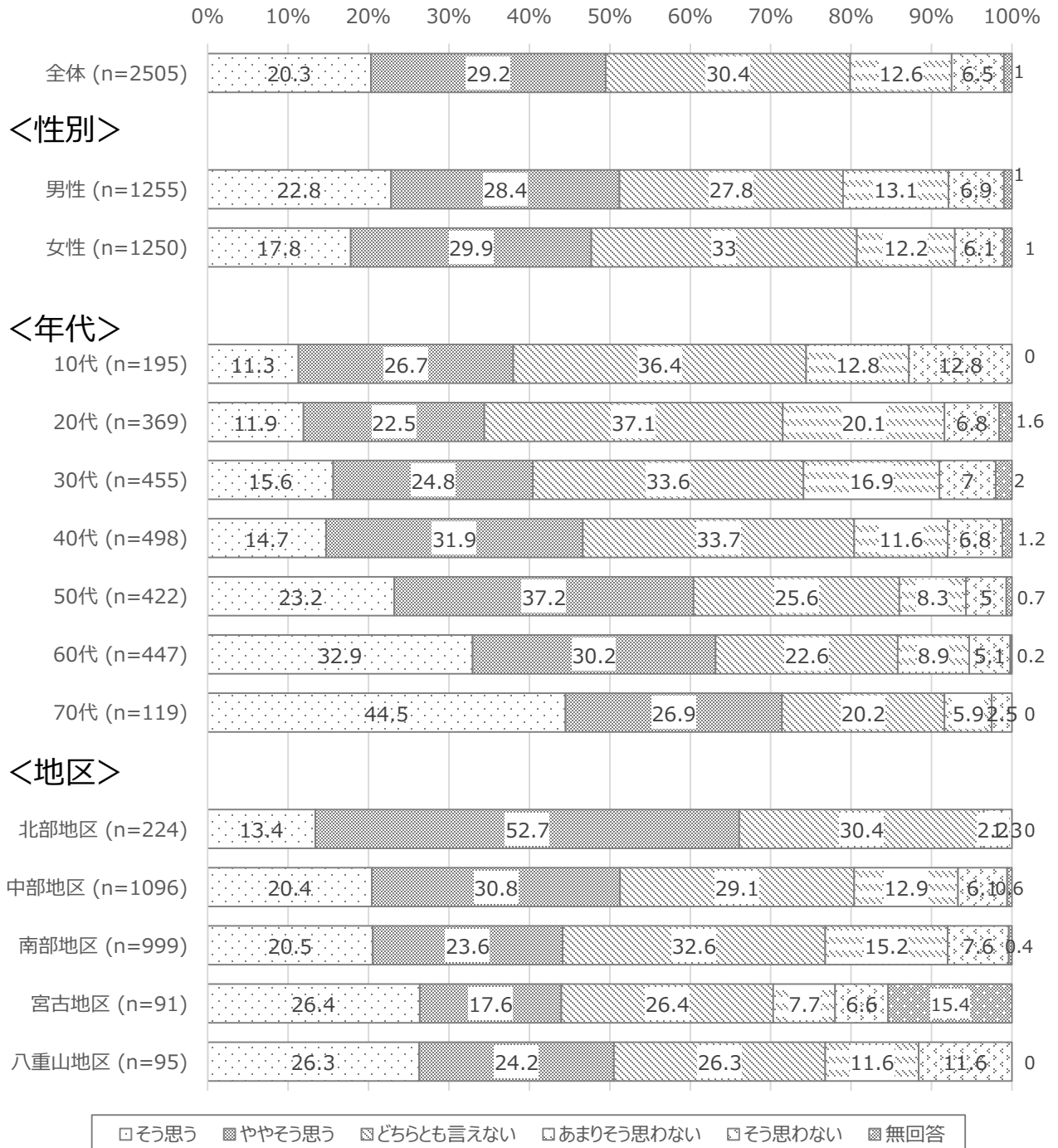
年代で見ると、20代のみビジネスや公共の場で「しまくとぅば」の使用について肯定的な意見が低くなっているものの、年代が高くなるにつれ肯定意見が高くなっている。

地区別で見ると、北部地区が「そう思う」が13.4%で最も低くなっているものの、「ややそう思う」が、52.7%で最も高く、結果的に肯定的な回答としては、北部地区が66.1%で最も高くなっている。

ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識



ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識



9. 普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性

普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要だと思うかについては、「非常に必要」が19.4%、「ある程度必要」が57.3%となり、これらを合わせた割合では76.7%となる。

平成25年度の調査では、「しまくとぅば」が必要としている県民が78.7%、28年度の調査では、76.9%となり、29年度の結果は28年度の調査と同様の結果となった。

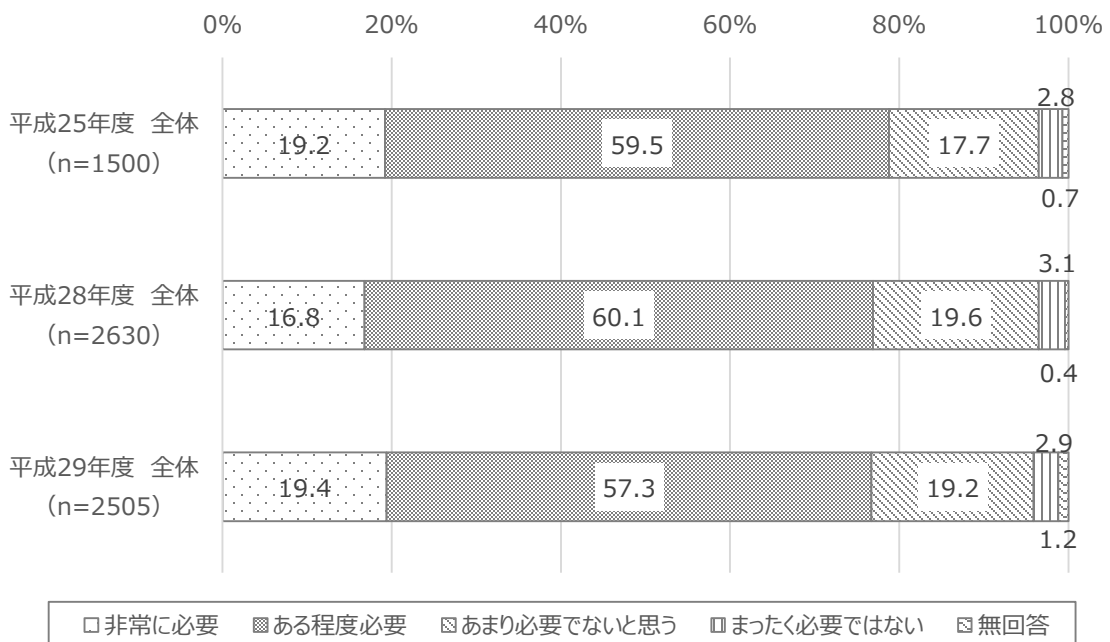
性別で見ると、「非常に必要」の回答で差が出ており、男性で22.7%、女性では16.0%となる。

年代別では、年代が上がるにつれ、必要性を感じている県民が多くなり、「非常に必要」で比較すると、10代で11.3%、20代で9.8%に対して、60代では31.8%、70代以上では44.5%となる。

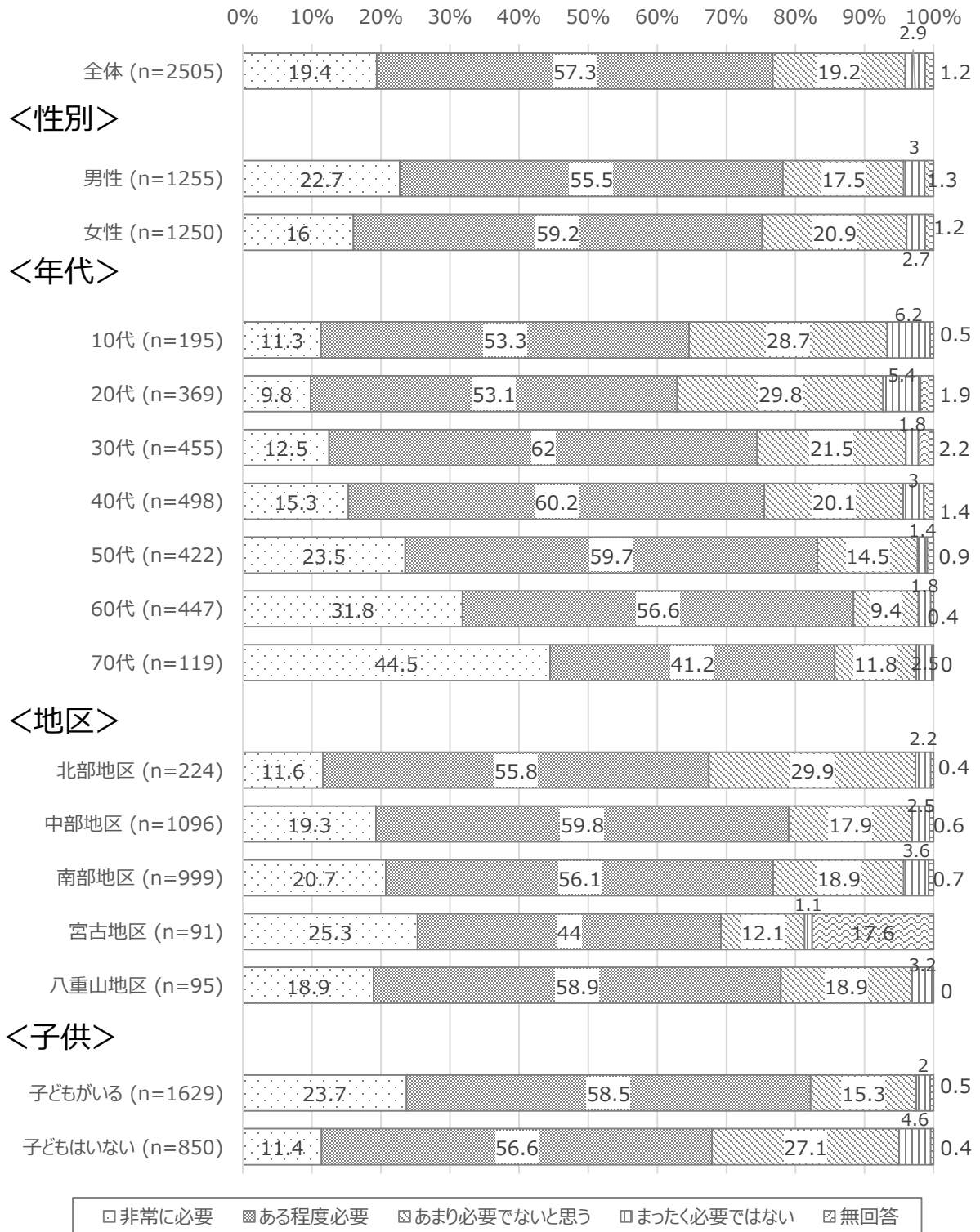
地区別では、宮古地区で「非常に必要」の回答が25.3%で最も高く、必要性を感じている地区では中部地区が79.1%で最も高い。

今回の調査では「子どもがいる」の回答が1629人おり、親の視点で見た場合、「非常に必要」が23.7%、「ある程度必要」が58.5%で「子どもがいない」の回答者より高くなっている。

普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性（前回比較）



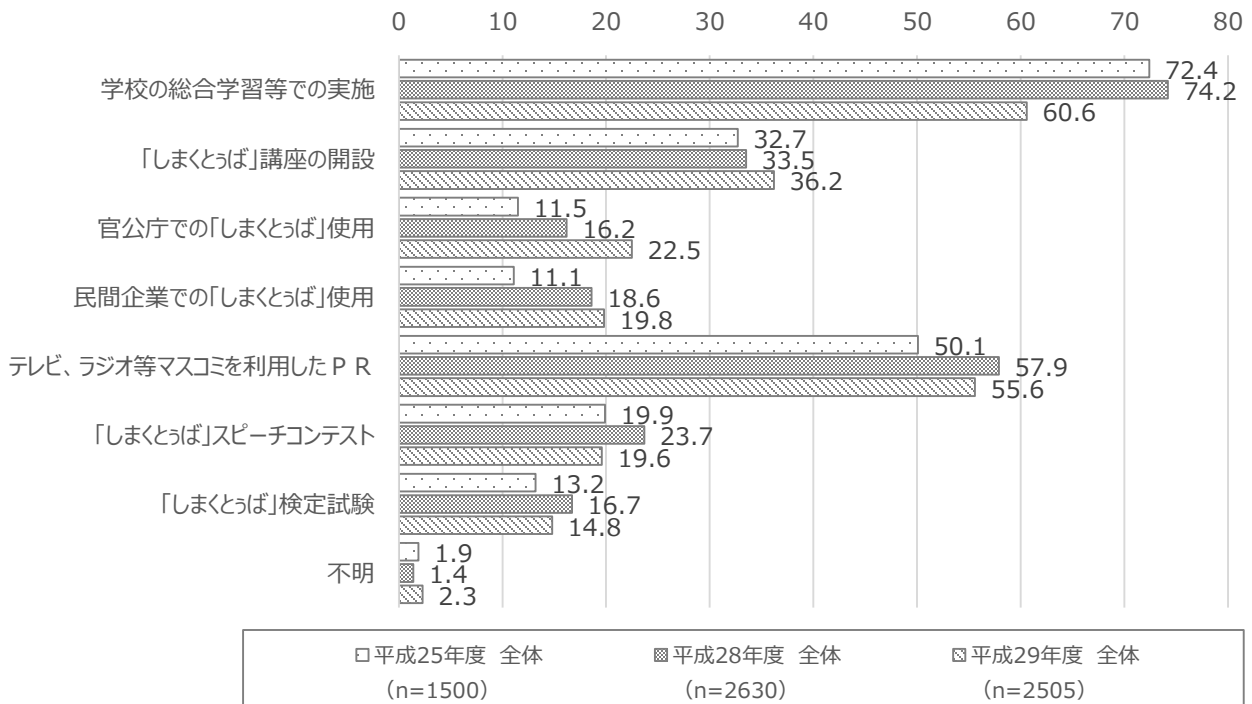
普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性



10.「しまくとぅば」の普及に必要なこと（前回比較）

「しまくとぅば」の普及に必要なことでは、「学校の総合学習等での実施」が60.6%で最も高く、次いで「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したP R」が55.6%、「しまくとぅば」講座の開設」で36.2%となる。

平成25年度、28年度と比較すると、29年度も同様に「学校の総合学習等での実施」、「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したP R」、「「しまくとぅば」講座の開設」の順で高くなっている。



「しまくとぅば」の普及に必要なこと

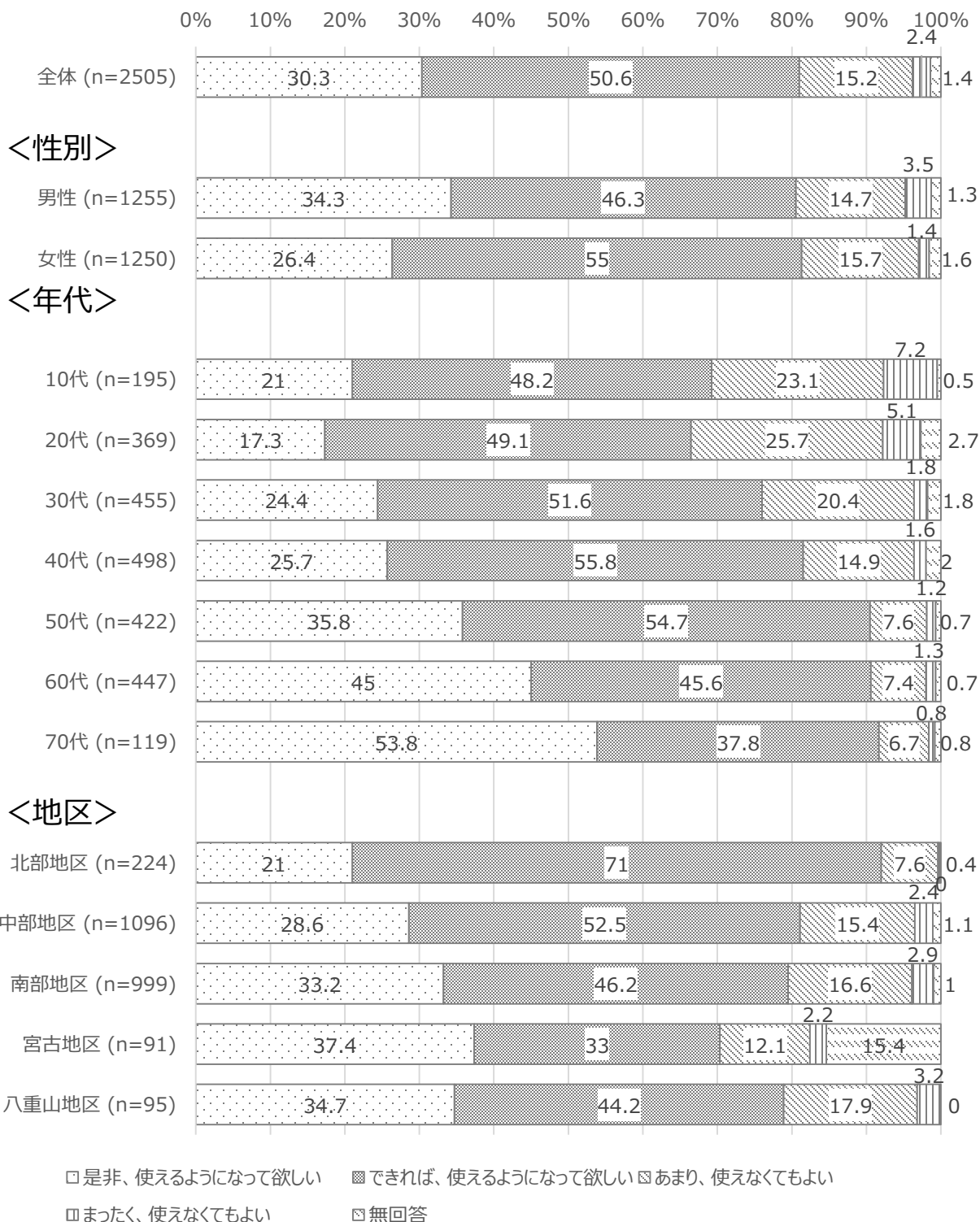
		学校の総合学習等での実施	「しまくとぅば」講座の開設	官公庁での「しまくとぅば」使用	民間企業での「しまくとぅば」使用	テレビ、ラジオ等マスコミを利用したP R	「しまくとぅば」スピーチコンテスト	「しまくとぅば」検定試験	未回答
	全体 (n=2505)	60.6	36.2	22.5	19.8	55.6	19.6	14.8	2.3
性別	男性 (n=1255)	60.2	35.5	24.5	21.4	55.9	19.1	15.8	2.2
	女性 (n=1250)	61	37	20.5	18.2	55.3	20.1	13.8	2.3
年代	10代 (n=195)	61.5	30.3	13.3	12.3	51.3	23.6	21.5	1
	20代 (n=369)	54.2	27.1	13.6	12.7	58	14.6	15.4	3.3
	30代 (n=455)	61.3	37.8	20.2	21.3	49.7	17.8	16.7	2.4
	40代 (n=498)	59.2	37.8	22.9	18.1	53.6	17.1	14.7	2.2
	50代 (n=422)	61.1	37.9	26.8	22.5	59.5	22.7	12.6	1.4
	60代 (n=447)	63.3	39.4	28.2	26	58.8	23	13.2	2.9
	70代 (n=119)	68.9	44.5	35.3	21.8	60.5	21.8	9.2	1.7
地区	北部地区 (n=224)	62.5	81.7	35.7	26.8	49.1	22.8	18.8	-
	中部地区 (n=1096)	58.7	29.9	21.9	20	59.2	21.3	15	1.5
	南部地区 (n=999)	63.3	34.9	22.2	18.7	55.7	17	13.9	2.1
	宮古地区 (n=91)	56	26.4	11	18.7	34.1	15.4	12.1	17.6
	八重山地区 (n=95)	53.7	25.3	11.6	12.6	49.5	24.2	15.8	4.2

11.子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識

子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいかの質問では、「是非、使えるようになって欲しい」が30.3%、「できれば、使えるようになって欲しい」が50.6%で合算すると80.9%が肯定的である。

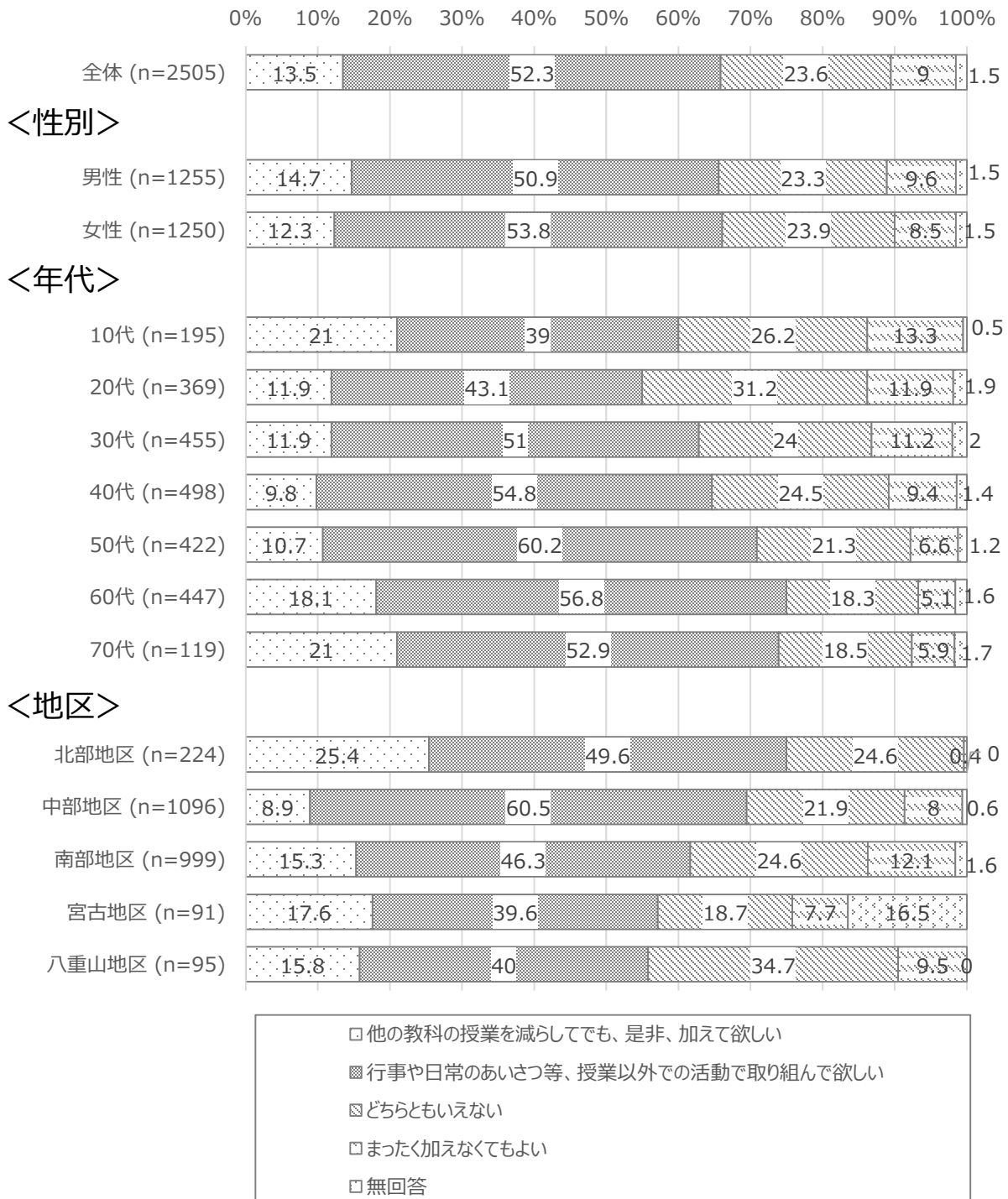
地区別に見ると、「是非、使えるようになって欲しい」と「できれば、使えるようになって欲しい」の合算が北部地区では92%で全体平均より10%以上高くなっている。

年代別では、年代が高くなるにつれ、肯定的である。



12. 学校の授業科目に「しまくとぅば」を加えること

「しまくとぅば」を学校の授業科目に加える事については「行事や日常の挨拶等、授業以外での活動で取り組んで欲しい」が52.3%で最も高い。次に「どちらともいえない」23.6%、「他の教科の授業を減らしてでも、是非加えて欲しい」が13.5%と続く。



13.家庭内での「しまくとぅば」への取組状況

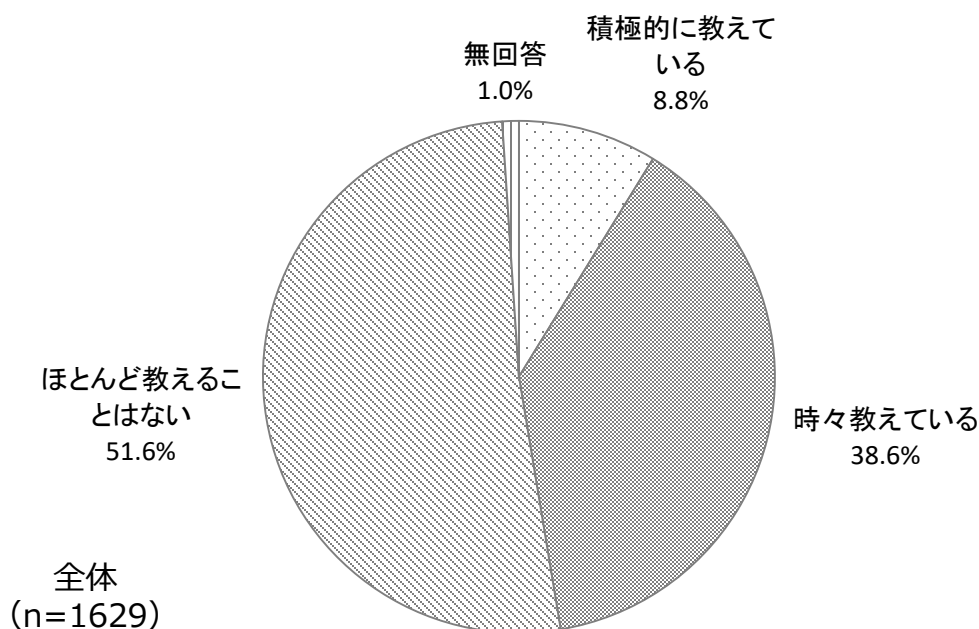
「子どもがいる」と回答した1,629人に対して、過程で子どもに対する「しまくとぅば」への取組状況を尋ねたところ、「積極的に教えている」が8.8%、「時々教えている」が38.6%となり、合算すると47.4%となる。「ほとんど教えていない」が51.6%から教えていない割合のほうが高くなっている。

性別で見ると、女性より男性のほうが「しまくとぅば」を教えている割合が高くなっている。

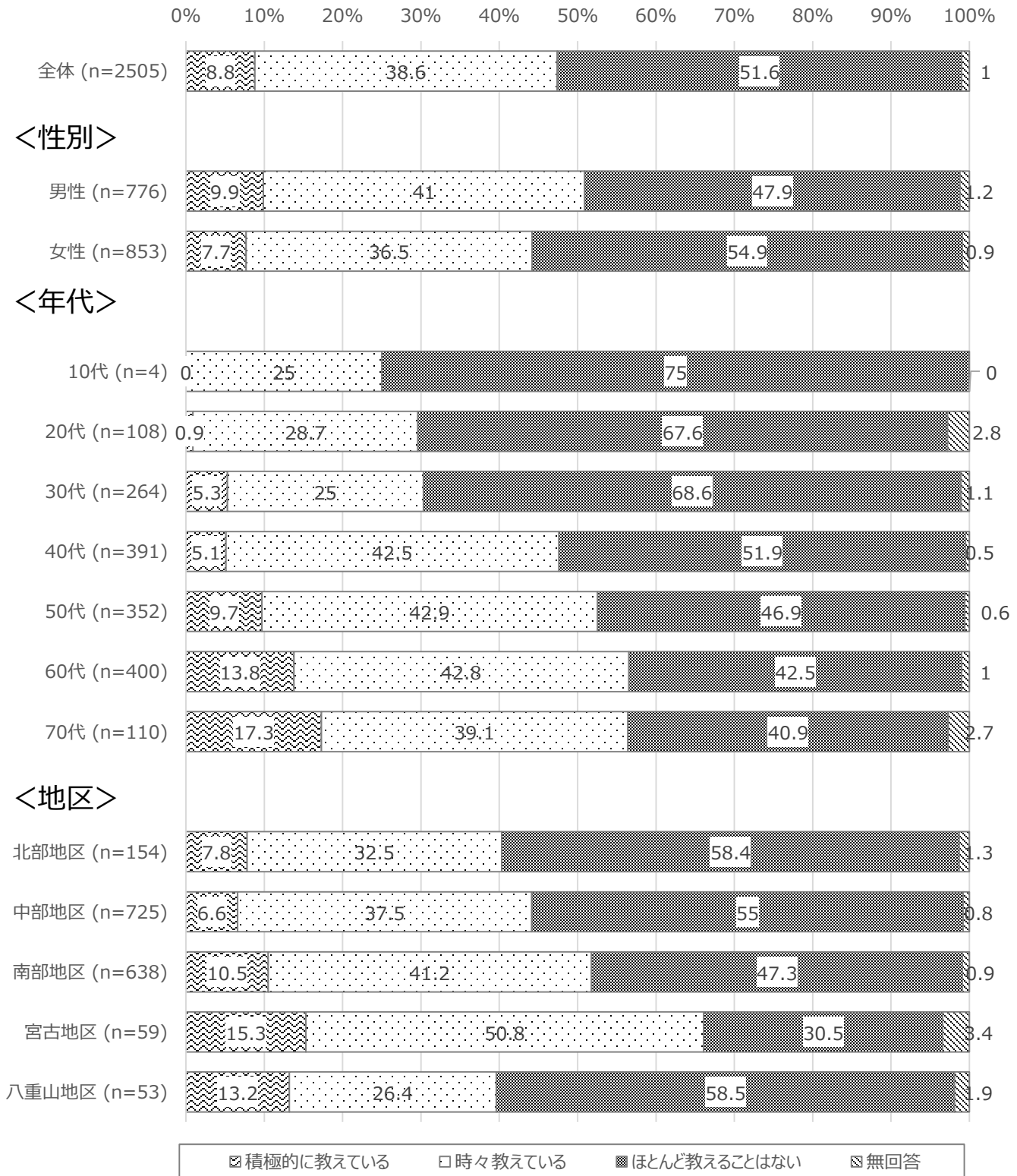
年代別では、年代が高くなるにつれ「しまくとぅば」を教えている割合が高くなり、10代から50代では「積極的に教えている」が10%を下回っているのに対して、60代では13.8%、70代では17.3%となっている。

地区別では、離島の宮古地区と八重山地区で「積極的に教えている」が高くなっている。

家庭内での「しまくとぅば」への取組状況



家庭内での「しまくとぅば」への取組状況



参考資料 調査票

市町村名

沖縄県

「しまくとぅば」県民調査

問1. あなたの性別は？

- 1. 男性
- 2. 女性

問2. あなたの年代は？

- 1. 10代
- 2. 20代
- 3. 30代
- 4. 40代
- 5. 50代
- 6. 60代
- 7. 70歳以上

問3. あなたはお子さんがいますか？

- 1. 子どもがいる
- 2. 子どもはいない

問4. あなたはどこで生まれましたか？

- 1. 沖縄県内
- 2. 沖縄県外

問5. あなたは「しまくとぅば」に親しみを持っていますか？（ひとつ選ぶ）

- 1. 親しみを持っている
- 2. どちらかといえば親しみを持っている
- 3. どちらかといえば親しみを持っていない
- 4. 親しみを持っていない
- 5. わからない

問6. あなたは「しまくとぅば」にどのようなイメージを持っていますか？（○はそれぞれひとつ）

	1 非常に	2 やや	3 どちらでも ない	4 やや	5 非常に	
(例) 「非常にやわらかい」というイメージの場合						
やわらかい	○1	2	3	4	5	硬い
やわらかい	1	2	3	4	5	硬い
明るい	1	2	3	4	5	暗い
丁寧	1	2	3	4	5	乱暴
誇らしい	1	2	3	4	5	恥ずかしい
豪快	1	2	3	4	5	繊細
さわやか	1	2	3	4	5	うっとうしい
かっこいい	1	2	3	4	5	かっこ悪い
面白い	1	2	3	4	5	面白くない
身近に感じる	1	2	3	4	5	身近に感じない
感情的	1	2	3	4	5	理論的
田舎っぽい	1	2	3	4	5	都会的
明瞭	1	2	3	4	5	不明瞭

問7. あなたは「しまくとぅば」を聞いて、どの程度わかりますか？（ひとつ選ぶ）

- 1. よくわかる
- 2. ある程度わかる
- 3. あまりわからない
- 4. 全くわからない

裏面へ

調査票

問8. あなたは「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関係のイベントに参加したことがありますか？
 1. 参加したことがある (ひとつ選ぶ)
 2. 参加したことはない

問9. あなたは人と話すとき「しまくとぅば」を使いますか？(ひとつ選ぶ)
 1. 「しまくとぅば」を主に使う
 2. 「しまくとぅば」と「共通語」を同じぐらい使う
 3. あいさつ程度使う(ハイサイ等)
 4. あまり使わない
 5. まったく使わない

問10. あなたが「しまくとぅば」を使う相手は誰ですか？(○はいくつでも)
 1. 祖父母 2. 父母 3. 夫・妻 4. 兄弟 5. 子供 6. 友達 7. 親戚
 8. 職場の同僚 9. その他()

問11. あなたはビジネスや公共の場で「しまくとぅば」を使ってもいいと思いますか？(ひとつ選ぶ)
 1. そう思う
 2. ややそう思う
 3. どちらとも言えない
 4. あまりそう思わない
 5. そう思わない

問12. 普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要だと思いますか？(ひとつ選ぶ)
 1. 非常に必要
 2. ある程度必要
 3. あまり必要でないと思う
 4. まったく必要ではない

問13. 今後「しまくとぅば」を普及させるためにどのような事をすべきだと思いますか？(○はいくつでも)
 1. 学校の総合学習等での実施
 2. しまくとぅば講座を開設
 3. 官公庁でのしまくとぅば使用
 4. 民間企業でのしまくとぅば使用
 5. テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR
 6. しまくとぅばスピーチコンテスト
 7. しまくとぅば検定試験

問14. あなたは子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいですか？(ひとつ選ぶ)
 1. 是非、使えるようになって欲しい
 2. できれば、使えるようになって欲しい
 3. あまり、使えなくてもよい
 4. まったく、使えなくてもよい

問15. 英語や国語、算数・数学などの授業を減らして、学校の授業科目に「しまくとぅば」を加えることをどう思いますか？(ひとつ選ぶ)
 1. 他の教科の授業を減らしても、是非、加えて欲しい
 2. 行事や日常のあいさつ等、授業以外の活動で取り組んで欲しい
 3. どちらともいえない
 4. まったく加えなくてもよい

〔現在は、学習発表会などで方言劇等の取組を行ったり、総合的な学習の時間等を活用して、日常生活のあいさつ・簡単な会話に取り組んでいる学校もあります。〕

※問3で「1. 子どもがいる」とお答えの方におたずねします。それ以外の方は調査終了です。

問16. あなたは家庭内で子どもに対して「しまくとぅば」を教えるようにしていますか？(ひとつ選ぶ)
 1. 積極的に教えている
 2. 時々教えている
 3. ほとんど教えることはない

ご協力ありがとうございました

平成29年度
しまくとぅば県民意識調査
報告書
平成30年3月
沖縄県